

# 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<b>①農業研究部 (計77件)</b>						
2028	農業研究部	<p>【イチゴ果実の損傷評価AI開発中：UV活用で損傷検出】 (2026. 3. 26発信)</p> <p>イチゴの輸送適性を評価するため、画像を用いて損傷を検出するAIの開発に取り組んでいます。UV光（紫外線）を照射して撮影することで、損傷部位が明確になることが明らかになりました。撮影画像を用いて機械学習モデルを作成した結果、損傷を90%以上の精度で検出できました。今後はさらに検出精度を向上させ、輸送中の損傷に強い新品種の選抜に活用していきます。</p>		農業研究部 スマート・バイオチーム	0974-28-2078	2026.3.31
2027	農業研究部	<p>【農事研修会で講演しました】 (2026. 3. 22発信)</p> <p>3月11日に大分市で標記研修会が開催され、大分県肥料商業組合と大分県農薬販売共同組合の会員及び肥料・農薬メーカーなど38名が参加しました。病害虫対策チームから、紋枯病や斑点米カメムシ、アザミウマ類、トマトキバガなど、特に発生が多かった病害虫の発生状況や防除対策について講演を行いました。参加者からは、紋枯病やトマトキバガの発生生態や、ドローン防除のポイントについて質問がありました。今後も研究会や研修会などを通して病害虫防除の情報共有や防除技術の向上に取り組んでいきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2026.3.31
2023	農業研究部	<p>【イチゴ品種育成支援プロジェクト会議を開催しました】 (2026. 3. 9発信)</p> <p>関係機関や栽培農家をメンバーにイチゴの品種育成に向けた意見交換や情報交換を定期的に行っています。本年度2回目となる今回の会議でも、定植時の高温化への育種の面からの対応の必要性等、貴重なご意見を伺うことができました。会議後、参加メンバーにて場内育種ハウスで選抜中のイチゴの生育や果実品質を確認しました。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2026.3.31
2022	農業研究部	<p>【ドローンによるたまねぎ圃場の空撮】 (2026. 3. 9発信)</p> <p>県下で拡大するたまねぎの栽培において、理想的な草姿（地上部の外観や形態）の指標化について研究を実施しています。2月20日に試験ほ場でドローン撮影し、スマート・バイオチームと協力しながら画像解析を行っていく予定です。今後、定期的に生育状況を調査し、生育の推移や収量との相関など明らかにしていきます。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2026.3.31
2021	農業研究部	<p>【効率的育種を目指した作物ゲノム情報解析と今後の展望】 (2026. 3. 8発信)</p> <p>九州大学農学研究院の平川教授を講師に、農林水産業等の県内関係研究員50名が参加して、最新のゲノム情報解析の動向について研修会を行いました。育種のスピードアップや多岐にわたるニーズへの対応のため、当チームでは、この知見によりゲノム情報を活用した効率的なイチゴ育種技術の開発に取り組めます。</p>		農業研究部 スマート・バイオチーム	0974-28-2078	2026.3.31
2020	農業研究部	<p>【日本製鉄株式会社にて技術講演を実施しました】 (2026. 3. 8発信)</p> <p>2月19日に日本製鉄株式会社大分地区にて、約60名を対象に、転炉スラグを活用した土づくりに関する研究について講演を行いました。日本製鉄社員からは転炉スラグ製造工程の説明を受け、肥料製造現場の課題や改良の方向性について意見交換を行いました。「みどり戦略」に対応した環境負荷低減の研究については、製鉄に加え、畜産や電力など他産業と連携して資源の有効活用を進めています。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2078	2026.3.31

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
2011	農業研究部	<p>【農業指導士新規認定研修会で講演しました】 (2026. 2. 14発信)</p> <p>2月5日に大分市で農業団体職員や農業関係企業関係者など156名が出席して開催され、病害虫対策チームから、病害虫の生態および防除の考え方について講演を行いました。今後も研究会や研修会などを通して病害虫防除の情報共有や防除技術の向上に取り組んでいきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2026.2.28
2008	農業研究部	<p>【白ねぎの有機質肥料活用試験を実施しました】 (2026. 2. 8発信)</p> <p>化学肥料の価格が高騰していることから、肥料コスト削減を目的とした試験を実施しています。低コストな有機質肥料「鶏糞ペレット」や「混合堆肥複合肥料」を施用しても、化学肥料と同等の収量を得ることができました。生産者に評価される研究成果となるよう、来年度も引き続き試験を実施します。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2026.2.28
2005	農業研究部	<p>【イチゴ栽培技術勉強会でうどんこ病対策を指導しました】 (2026. 2. 5発信)</p> <p>農業研究部では、2月2日にイチゴのうどんこ病に対する注意報を発表しました。本病への対策強化のため、1月26日に広域普及指導員主催の「いちご栽培技術勉強会」が開催され、普及指導員を中心に17名が参加しました。当チームから、本年度の発生要因、新規薬剤を含む殺菌剤の特性や効果的な使用方法について指導しました。出席者からは気門封鎖剤や展着剤の混用の是非や散布間隔の考え方等について質問がありました。今回の内容は、普及指導員等を通じて生産者に情報共有します。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2026.2.28
2001	農業研究部	<p>【イチゴの新品種を研究しています】 (2026. 1. 28発信)</p> <p>大分県のオリジナル品種の育成に取り組んでいます。令和3年には「大分6号（ベリーツ）」が品種登録されましたが、農業研究部では毎年2,000個以上の種子をまいて、生育が良好で色や味の優れたものを選抜しています。旬を迎えたこの時期には食味試験を行い、有望系統を評価しました。</p>		農業研究部 企画指導担当	0974-22-0671	2026.2.28
1999	農業研究部	<p>【イチゴのウイルスフリー苗を出荷しました】 (2026. 1. 20発信)</p> <p>農業研究部で生産した県オリジナルイチゴ「ベリーツ（大分6号）」のウイルスフリー苗（原種）400株を許諾先である全農おおいたに出荷しました。今後は2次増殖を行う民間事業者により、苗数を25倍程度に増やし、R9年度の栽培に向けて県内各地の生産者へ販売されます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2026.2.28
1998	農業研究部	<p>【小型堆肥化装置を使用した堆肥化試験を開始しました】 (2026. 1. 20発信)</p> <p>化学肥料の使用量を減らすためには、有機質資材（堆肥）の積極的な活用が必要です。その際、問題となるのが堆肥の臭気です。堆肥の製造過程において、強い臭気が発生する要因を解明するため、小型堆肥化装置を用いた試験を開始しました。これまでの処理方法を改善して、臭気の少ない堆肥製造を実証します。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2026.2.28

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1996	農業研究部	<p>【基盤整備圃場における局所排水不良対策の指導】 (2026. 1. 18発信)</p> <p>竹田市高源寺地区において、豊肥振興局など関係者と夏秋ピーマン生育不良箇所の排水改善対策を実施しました。 現地は下層土が強粘土質のため、地下にある暗渠排水管まで水の浸透が不十分でした。その改善のため、サブソイラによる心土破碎と同時に多孔性資材である「クリンカアッシュ」を投入しました。 次年度の栽培で効果が実感できるよう指導します。</p> <p>※クリンカアッシュとは、火力発電所で石炭を燃焼させた時に発生する石灰質のことで、地中に埋め込まれた水路のことです。 ※サブソイラとは、下層の硬い土に亀裂を入れて破碎する農業機械のことです。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2026.2.28
1986	農業研究部	<p>【施肥防除対策研修会で発表しました】 (2025. 12. 25発信)</p> <p>12月10日に県および肥料植物防疫協会主催の施肥防除対策研修会が開催され、JA職員、農薬メーカー及び普及指導員を含め141名が参加しました。当チームの研究員から「防除指導指針の改訂」、「今年度の病害虫発生状況」、「トマトキバガの生態と防除」について説明および発表を行いました。引き続き、病害虫防除の情報共有や防除基準策定、まん延防止に取り組んでいきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2026.1.31
1985	農業研究部	<p>【転炉スラグを利用したニンジンの栽培試験】 (2025. 12. 24発信)</p> <p>転炉スラグは、製鉄所の製鋼工程で生成される副産物で、土壌pHを長期的に安定して維持できる優れた土壌改良資材です。本試験では、転炉スラグを散布した畑でニンジン栽培し、収量性等を調べています。今回は抜き取り調査を実施し、収穫したニンジンについて分析を行いました。引き続き、転炉スラグがニンジン生育や養分吸収に与える効果を明らかにしていきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2026.1.31
1984	農業研究部	<p>【大規模園芸団地予定地の土壌調査を実施しました】 (2025. 12. 24発信)</p> <p>企業参入による飯田高原での葉ねぎの生産拡大に向け、九重町の圃場約10haにおいて、西部振興局と合同で簡易な土壌断面調査を行いました。今回は、深さ40cm程度の穴や、検土杖（けんどじょう）を用いた調査により、土壌の種類や礫の存在について確認しました。 今回の結果に基づいて、圃場整備事業等により葉ねぎに適した土壌への改良を検討します。</p> <p>※検土杖とは、大きな穴を掘らずに、土壌の深さや土質を垂直に採取・調査するための道具で、ボーリングステッキとも呼ばれます。（写真）</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2026.1.31
1979	農業研究部	<p>【ピーマンの収穫終了後調査を実施しました】 (2025. 12. 13発信)</p> <p>ピーマンの株を掘り上げて、植物体の大きさや根の長さを計測しました。今年度の栽培管理が生育に与えた効果を推察し、翌シーズン以降の高温に対応できる最適な灌水方法の研究に役立ちます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2025.12.31

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1978	農業研究部	<p>【JAおおいた玖珠九重トマト部会女性部研修会を実施しました】 (2025. 12. 13発信)</p> <p>12月2日に標記研修会が開催され、生産者など17名が参加しました。病害虫対策チームから、トマトキバガ対策および天敵資材を活用したコナジラミ類防除、果菜類チームからは、高温対策に関する研究内容について紹介しました。今後も、このような機会を通じて、研究成果の普及に取り組んでいきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.12.31
1976	農業研究部	<p>【九州沖縄農業推進会議 野菜・花き推進部会 イチゴ研究会が開催されました】 (2025. 12. 11発信)</p> <p>九州・山口の各県と国の研究機関から研究者40名が一同に会し、標記研究会が開催されました。中津市の農業生産法人のハウスで現地検討会を行った後、大分市に移動して室内検討会を行いました。岡山大学の吉田特任教授を講師に招き、「温暖化によるイチゴの開花遅延の実態と対策」と題して、育苗・定植時期の高温対策等について講演がありました。参加者からは現場の課題の紹介もあり、活発な意見交換が行われました。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2025.12.31
1973	農業研究部	<p>【普及指導員へ白ねぎの技術研修（後期）を実施しました】 (2025. 12. 8発信)</p> <p>野菜担当普及指導員やJA営農指導員など8名が参加して、技術課題に対応した試験研究の講義と生育調査や収穫調査など営農指導に必要な作業を実習しました。今後も、研修を通じて研究成果を普及し、営農指導員の育成に協力します。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.12.31
1972	農業研究部	<p>【たまねぎを定植しました】 (2025. 12. 8発信)</p> <p>国東市では、参入企業を中心にたまねぎの産地化を進めています。当部では、栽培の安定化に向け、生育目標を数値化する研究を開始しました。今後、生育ステージ毎に調査を行い、指標の作成など、可視化に取り組みます。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.12.31
1969	農業研究部	<p>【豊後高田市担い手研修会で講演】 (2025. 12. 5発信)</p> <p>11月27日に豊後高田市主催の担い手研修会が開催され、生産者や普及指導員など約20名が参加しました。当チームからは白ネギの各種病害虫対策やドローン防除に関する研究内容について紹介しました。参加者からは、病害虫に対する薬剤感受性検定の結果が参考になることや、対策に苦慮している病害虫の情報について意見がありました。今後も研修会などを通して、病害虫防除の研究成果普及や現地ニーズの把握に努めます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.12.31
1968	農業研究部	<p>【大分土壤医の会研修会で講演しました】 (2025. 12. 5発信)</p> <p>大分土壤医の会は、県内の土壤医資格保有者が相互に研鑽や交流を行う場です。11月27日に竹田市荻町で標記研修会が開催され、生産者を中心に13人が参加しました。今回は露地野菜の圃場で土壌断面調査の研修を行った後、竹田市荻町支所会議室に移動して「露地圃場の土壌管理と土壌の化学性について」と題して、土壌の種類別の物理性改善方法について講演を行いました。今後も、このような機会を通じて、研究成果の現地導入を進めていきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.12.31

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1967	農業研究部	<p>【第3回 JAグループおおいとの試験研究営農連携会議】 (2025. 12. 4発信)</p> <p>11月21日に沖縄県で開催された日本植物病理学会九州部会において、病害虫対策チームの山崎専門研究員(チームリーダー)が令和7年度地域貢献賞を受賞しました。長年、病害虫防除に関する研究に取り組む中で、「ピーマン軟腐病等の研究成果」が九州地域の農業発展に大きく貢献したことが評価されました。</p>		農業研究部 企画指導担当	0974-22-0671	2025.12.31
1963	農業研究部	<p>【九州地区の病害虫研究貢献賞を受賞】 (2025. 11. 28発信)</p> <p>11月21日に沖縄県で開催された日本植物病理学会九州部会において、病害虫対策チームの山崎専門研究員(チームリーダー)が令和7年度地域貢献賞を受賞しました。長年、病害虫防除に関する研究に取り組む中で、「ピーマン軟腐病等の研究成果」が九州地域の農業発展に大きく貢献したことが評価されました。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.12.31
1960	農業研究部	<p>【アグレッッシュおおい第49回研修会で講演しました】 (2025. 11. 20発信)</p> <p>アグレッッシュおおいは、農業以外の業種から新規に農業へ参入した新規就農者が農業に関する技術及び経営の研鑽と親睦を図るための団体です。 11月15日に大分市内で標記研修会が開催され、生産者を中心に27人が参加しました。今回は「プロ農家が知っておきたい土壌管理の話」と題して、土づくりや連作障害、排水不良への対策について講演を行いました。今後も、このような機会を通じて、生産者の技術向上に取り組んでいきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.12.31
1959	農業研究部	<p>【画像診断AIを用いた花きの調査方法を開発中】 (2025. 11. 20発信)</p> <p>スプレー咲きの花である「ヤマジノギク」の外観評価は、花のつき方(フォーメーションと呼ばれる)に左右されます。今まで研究員や関係者の主観で行っていたフォーメーションの評価を、画像認識技術を用いて自動評価できる技術を開発しています。客観的で正確な評価が可能になることから、今後、品種育成に活用していきます。</p>		農業研究部 スマート・バイオチーム	0974-28-2079	2025.12.31
1958	農業研究部	<p>【病害虫専門技術研修を実施しました】 (2025. 11. 20発信)</p> <p>県地域農業振興課主催の病害虫専門技術研修が11月6、7日に開催され、普及指導員としての経験2~3年目の職員22名が参加しました。研修は、病害虫対策チームのハウスで農業散布や病害診断に関する実習を行いました。高温傾向で想定外の病害虫発生が心配される中、病害虫防除の情報共有や技術の向上で安定した農業生産に貢献していきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.12.31
1955	農業研究部	<p>【キウイ造成予定地土壌断面調査研修を開催しました】 (2025. 11. 13発信)</p> <p>キウイの生産拡大に向け、佐伯市弥生町の圃場5か所において、南部振興局など関係機関の職員18名を対象に土壌断面調査の研修を行いました。今回は、排水対策や土壌物理性改善方法について検討しました。 今回の結果に基づいて、圃場整備事業等によりキウイに適した土壌への改良を計画します。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.11.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1953	農業研究部	<p>【土壌肥料・病害虫研修会で講演しました】 (2025. 11. 8発信)</p> <p>県肥料植物防疫協会主催の土壌肥料・病害虫研修会が10月8日に開催され、肥料、農薬メーカーの職員等29名が参加しました。当チームからは、IPM（総合防除）技術の事例としてタバコカスミカメを活用したコナジラミ類の防除について研究成果を紹介しました。今後、研究会や研修会などを通して病害虫防除の情報共有や技術の向上に取り組んでいきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.11.30
1952	農業研究部	<p>【新任普及員へ「かんしょ」の研修を実施】 (2025. 11. 8発信)</p> <p>10月31日に、県主催で新任の野菜普及指導員に対して「かんしょ」の研修を行いました。貯蔵かんしょの糖度調査を県の広域普及指導員やJA営農指導員、生産者から学び、実習を行いました。その他にも、食味調査や選果など、実践的な技術について研修を実施しました。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.11.30
1947	農業研究部	<p>【豊後大野市で土壌断面調査研修を行いました】 (2025. 10. 31発信)</p> <p>大分県では大規模かつ効率的な園芸団地の計画的な整備と産地の高収益化を目標として、農業農村整備事業による圃場整備に取り組んでいます。今回、圃場整備の一環として、豊後大野市にて研修会がありました。</p> <p>研修会には振興局職員など10名が参加し、土壌断面調査の必要性や、調査項目の説明を受け、実際に土壌種類の判別や、透水性を調査する試料の採取など行いました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.11.30
1944	農業研究部	<p>【九重町にて土壌断面調査を行いました】 (2025. 10. 25発信)</p> <p>水田を、玉ねぎなどの畑作物の栽培に適する農地に転換するため、10月21日に水田農業グループの試験圃場にて砂、クリンカアッシュ、珪藻土（原土）を散布し、粘質土壌の物理性改善試験を開始しました。今後、土壌調査や栽培試験を通じ、各資材の排水性改善効果などを明らかにしていきます。</p> <p>※クリンカアッシュとは、火力発電所で石炭を燃焼させた時に発生する石炭灰のことです。</p> <p>※珪藻土の原土とは、採掘されたままの状態の土のことです。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.11.30
1942	農業研究部	<p>【かんしょの品質調査中！】 (2025. 10. 16発信)</p> <p>高糖度かんしょ「べにはるか」は明るい赤紫色で滑らかな表面の紡錘形、強い甘みとしっかりとした食感が特徴です。大分県では「甘太くん」ブランドで面積を増やし、人気を集めています。</p> <p>農業研究部の場内圃場では、9月下旬から収穫が始まり、現在収穫の最盛期を迎えています。栽培期間中の気象条件が外観に与える影響に注目し、研究を進めています。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.11.30
1941	農業研究部	<p>【ドローンによる農薬散布試験を実施しました】 (2025. 10. 11発信)</p> <p>10月2日に、農業研究部のネギ圃場にて、ドローンプラットフォーム・XROSSとの共同研究による防除試験を実施しました。本試験では、農薬が植物に均一に付着し、その効果を高める役割を持つ展着剤を混合することで、ドローン防除における「付着ムラ」の改善や、ネギアザミウマに対する殺虫効果の向上を目指しています。今後も引き続き現地における病害虫防除の課題に取り組んでいきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.10.31

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1934	農業研究部	<p>【九重町にて土壌断面調査を行いました】 (2025. 10. 3発信)</p> <p>九重町の新規就農者のトマトハウス建設にあたり、西部振興局から現地調査を要請され、就農予定者を含む関係者11人で土壌断面調査を行いました。今回の調査結果と土壌分析結果を用いて、土壌改良方法やハウスの造成方法について検討していく予定です。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.10.31
1933	農業研究部	<p>【野菜専門技術研修を実施しました】 (2025. 9. 26発信)</p> <p>9月5日に、野菜担当の2年目普及指導員等を対象とした研修を行いました。今回は、県の普及指導員2名の他に大分市の職員2名、農協の職員2名の計6名が参加し、トマトのホルモン処理や摘葉、収穫作業などを体験し、トマトの栽培について理解を深めました。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2025.10.31
1930	農業研究部	<p>【課題解決研修会で講演しました】 (2025. 9. 18発信)</p> <p>9月8日に当センターで標記研修会が開催され、JA、普及指導員など13名が参加しました。当チームから、IPM（総合防除）技術の事例として、タバコカスミカメを活用したコナジラミ類の防除、アザミウマへの赤色防虫ネットの効果やビーマン斑点病への肥培管理による発生軽減対策について紹介しました。参加者からは、試験結果の生産現場での活用について要望がありました。今後も研修会などを通じて病害虫防除の情報共有や技術の向上に取り組んでいきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.10.31
1926	農業研究部	<p>【草地での転炉スラグによる土壌酸性改良試験を実施しています】 (2025. 9. 12発信)</p> <p>県内の草地園場では土壌pHの低下が課題となっています。転炉スラグは安価に石灰分を補給でき、長期間の土壌pH改良効果が期待できる資材です。永年牧草地では更新時の土壌改良が重要であり、転炉スラグの施用が現地の課題解決に有効な手法であると考えられます。9月初旬に竹田市の園場で資材の施用を実施しました。今後、畜産研究部や振興局と連携して資材の効果を検証していく予定です。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.9.30
1925	農業研究部	<p>【白ねぎの高温対策について検討しました】 (2025. 9. 12発信)</p> <p>8月28日に農業研究部で、白ねぎ担当者会議（県・JA）を開催しました。普及指導員から県内各地で実証中の高温対策試験について経過報告があり、今後の課題や対策について情報交換を行いました。農業研究部からは、白ねぎ試験（肥料、ドローン防除他）について紹介し、「試験園場」を見学しました。今後も、県内の白ネギ担当者で連携して、課題解決に取り組んでいきます。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.9.30
1921	農業研究部	<p>【インターンシップの学生を受け入れました】 (2025. 9. 5発信)</p> <p>8月25～29日の間、大分県職員（農業）の仕事に興味がある大学生1名を対象にインターンシップを実施しました。果菜類チームの業務を説明した後、実際にトマトの収穫やビーマンの仕分け、植物体の硝酸イオン濃度の測定など、管理作業からデータ測定・収集まで幅広い業務を体験してもらいました。当部では、学生の県農業分野の業務に対する理解が深まるよう、今後もインターンシップの学生を受け入れていきます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2025.9.30

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1918	農業研究部	<p>【いちごIPM技術研修会で研究成果の紹介】 (2025. 9. 3発信)</p> <p>8月27日に県日出総合庁舎で、生産者やJA、普及指導員など約40名が参加し、標記研修会が開催されました。農業研究部に講演の依頼があったので、「いちご灰色かび病に対するIPM（総合防除）技術」について、効果的な薬剤や換気・送風等の湿度管理による発生軽減対策を紹介しました。参加者から新規薬剤登録の要望がありました。今後も総合防除の取り組みを支援していきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.9.30
1913	農業研究部	<p>【かんしょウイルスフリー苗6000本(R8作用)の出荷完了】 (2025. 8. 22発信)</p> <p>農業研究部では、全農大分県本部から委託を受け、高精度かんしょ「べにはるか」のウイルスフリー苗を増殖・供給しています。成長した元苗を1節ずつ切断して育苗し、6月末から5回に分け、計6000本の苗を出荷しました。今後はJA等の育苗施設でさらに増殖され、来年春には約210戸の生産者により、県下190haで植え付けられる予定です。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.9.30
1912	農業研究部	<p>【夏秋ピーマンの障害果を高精度に判定する技術の開発に着手】 (2025. 8. 21発信)</p> <p>選果場での選別時に緑色であった県産ピーマンが、短期間に赤くなる障害果が問題となっています。選別時には正常に見える障害果が出荷されないよう、民間企業や大分高専と連携してAIや画像処理などの先端技術を活用し、あらかじめ判別できる技術の開発に取り組んでいます。</p>		農業研究部 スマート・バイオチーム	0974-28-2079	2025.9.30
1911	農業研究部	<p>【ドローン空撮による8haの牧野の状況把握を行いました】 (2025. 8. 21発信)</p> <p>広大な牧野の状況把握には多大な労力がかかるため、豊肥振興局からの要請によりドローンを活用した診断を実施しました。空撮画像をNDVI（正規化植生指数）処理することで、牧草の生育状態を迅速かつ正確に把握することができます。牧野管理の効率化や自給飼料の確保を通じた畜産振興に期待が高まります。</p>		農業研究部 スマート・バイオチーム	0974-28-2079	2025.9.30
1908	農業研究部	<p>【農業農村整備事業にかかる土壌断面調査を行いました】 (2025. 8. 13発信)</p> <p>農業農村整備事業の実施にあたり、北部振興局や宇佐市役所から現地調査を要請され、関係者10名で土壌断面調査を行いました。今回は中津市のモモ栽培予定農地2箇所で、主に排水対策技術や土壌改良方法を検討しました。今回の結果に基づいて、モモ栽培に適した圃場が整備されます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.8.31
1907	農業研究部	<p>【土壌断面調査の研修を行いました】 (2025. 8. 13発信)</p> <p>7月31日に由布市の圃場において、中部振興局の職員20名を対象に土壌断面調査の研修を行いました。当研修会では、花木作付圃場の選定時の排水対策技術の考え方について、実地で調査手法を学びました。研修で習得した内容を、今後の普及活動に生かすことが期待されます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.8.31
1906	農業研究部	<p>【大分県茶品評会審査会を実施しました。】 (2025. 8. 10発信)</p> <p>今年で57回目となる大分県茶品評会審査会を、農林水産研究指導センターの検茶室で実施しました。煎茶の部、玉緑茶の部に県内各地から昨年同様の28点の出品があり、3人の審査員が外観（見た目）、内質（香り、水色（お茶の色）、滋味（味わい））について審査を行い、高品質なお茶を選定しました。今後、審査結果を出品者に繋ぎ、より質の高い茶生産を推進します。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.8.31

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1905	農業研究部	<p>【JAおおいた「甘太くん」部会青年部研修会で講演しました】 (2025. 8. 9発信)</p> <p>7月25日にJAおおいた豊肥エリア会議室で標記研修が開催され、「甘太くん」部会青年部の生産者を中心に15名が参加しました。当チームから、土壌消毒の考え方について講演を行いました。講演後には、土壌病害虫の発生原因となる残渣の処分や今夏の渇水に苦労されているとの意見もありました。今後も研究会などを通じて病害虫防除の情報共有や技術の向上に取り組んでいきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.8.31
1904	農業研究部	<p>【ピーマンタバコガ類対策普及展示圃調査に参加しました】 (2025. 8. 9発信)</p> <p>ピーマンのタバコガ類及び軟腐病対策のため、地域農業振興課の事業により中部局及び豊肥局が設置している交信攪乱剤（コンフューザーV）普及展示圃調査に参加しました。設置2週間後においても、同剤設置圃場では、未設置圃場よりタバコガ類の発生が少ない傾向でした。両病害虫は9月まで発生するため、産地普及に向けて調査を継続していきます。</p> <p>※交信攪乱剤 害虫のメスのメスにおいて成分（フェロモン）を含んだひも状のチューブ。メスのメスにおいて圃場全体に拡散し、オスはメスを探せず交尾できなくなり、産卵数が抑制される。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.8.31
1894	農業研究部	<p>【トマト・ピーマンハウスにアルミマルチを設置しました】 (2025. 7. 15発信)</p> <p>トマト、ピーマンの高温対策としてアルミマルチを設置しました。アルミマルチは光反射率が高い資材で、夏場に畝の上に敷くことで地温の昇温抑制効果が期待されています。今後も様々な対策を検証していきます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2025.8.31
1893	農業研究部	<p>【イチゴの炭そ病検定を実施しました】 (2025. 7. 13発信)</p> <p>果菜類チームでは毎年、イチゴ「ベリーツ（大分6号）」の原種（ウイルスフリー苗）を全農おおいたへ供給、専門事業者で増殖をした後に県下の産地に販売されています。原種は病害に感染しないように隔離したハウスで栽培・増殖し、重大な病害である「炭そ病」への感染の有無を検定します。6月27日から158株の親株の検定を始めました。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2025.7.31
1892	農業研究部	<p>【花木定植圃場に土壌断面調査を実施しました】 (2025. 7. 12発信)</p> <p>地域に適した有望花木類の産地づくりのため、竹田市の圃場において、振興局やJA等の関係部所職員8名を対象に土壌断面調査の研修を行いました。 今回の研修を受けた職員を中心に、植栽予定地の土壌調査を行い、品目選定と栽培技術確立を進めていきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.7.31
1891	農業研究部	<p>【トマトハウスに外気導入装置を設置しました】 (2025. 7. 12発信)</p> <p>昨年に続き、夏期の高温などのハウス内環境を改善し、収量や品質向上を図るために場内のトマトハウスに外気導入装置を設置しました。 今年度は送風ファンで吸い込んだ外気を、植物群落内に配置したダクトでハウス内に導入し、群落内気温や植物体表面温度、炭酸ガス濃度を測定し効果を確かめます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2025.7.31

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1887	農業研究部	<p>【遮光資材をビニールハウスに吹き付けました】 (2025. 7. 10発信)</p> <p>6月下旬に定植した冬にらが高温により葉先枯れしたため、遮光資材をハウスに吹き付けました。炭酸カルシウムと展着剤が混合された資材であり、安価かつ省力的に遮光できました。晴天の日の8時から16時の平均気温を、隣接するハウスと比較したところ、4.6度低くなりました(遮光資材あり：36.5℃、遮光資材なし：41.1℃)。気候の変化に応じて、今後も様々な対策を検証していきます。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.7.31
1884	農業研究部	<p>【イチゴの育苗開始】 (2025. 7. 3発信)</p> <p>R7年度試験に向けて、大分県オリジナルイチゴ「ベリーツ」の採苗・挿し苗を行いました。これから3か月かけて苗を育て、9月下旬から農業研究部のハウス（豊後大野市、標高151m）に定植します。年末から年明けの収量向上対策として苗の冷却やハウスの遮熱、炭酸ガス施用の試験を行い、早ければ11月下旬から収穫が始まります。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2025.7.31
1883	農業研究部	<p>【ウイルスフリー苗の簡易増殖法の研修】 (2025. 7. 3発信)</p> <p>農業研究部では、高糖度かんしょ「甘太くん」の苗を増殖し、JA全農おいたを通じて産地に供給しています。簡易増殖法は、培地の滅菌作業や無菌操作が不要で、作業効率化や時間短縮が可能なため、産地拡大に対応できる技術として実用化に期待がかかります。</p>		農業研究部 スマート・バイオチーム	0974-28-2079	2025.7.31
1879	農業研究部	<p>【研究功労者表彰を受賞しました】 (2025. 7. 1発信)</p> <p>6月24日に日比谷コンベンションホール（東京都）で開催された全国農業関係試験研究場所長会において、病害虫対策チームの山崎専門研究員（チームリーダー）が令和7年度研究功労者表彰を受賞しました。今回、山崎TLの研究したピーマン軟腐病対策等の6つの研究成果「野菜類のウイルス病及び細菌病の防除技術の確立」が高く評価されました。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.7.31
1876	農業研究部	<p>【駅館川農地整備事業に関する土壌改良打ち合わせ】 (2025. 6. 26発信)</p> <p>駅館川流域では農地整備を契機とした園芸産地づくりの計画が進められています。今回は、ぶどう園の造成に関して関係機関から14人が参加し、様々な協議を行いました。 土壌改良資材についてはバーク堆肥や牛ふん堆肥を使うこと、投入量は現地で配合量試験を行って決定することを確認しました。 なお、来年度の新規研究課題では土壌改良資材の種類や投入量が農作物の生育に与える影響などを調べる予定です。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.7.31
1875	農業研究部	<p>【かんしょウイルスフリー苗の出荷が始まりました】 (2025. 6. 25発信)</p> <p>農業研究部では、全農大分県本部から委託を受けて高糖度かんしょ「べにはるか」のウイルスフリー苗を増殖・供給しています。この苗の利用が品質の安定につながり、「甘太くん」のブランド化を支えています。今回は1回目の出荷で、8月までに計6000本の出荷を予定しています。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.7.31

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1873	農業研究部	<p>【ニラの定植を行いました】 (2025. 6. 19発信)</p> <p>葉根菜類・茶業チームでは、冬ニラの安定生産に欠かせない株養成の指標（期間、茎数、茎径、葉幅）を作成するために試験を行っています。一般的には、4月に3粒播種し、7月に定植しますが、3月に2、3、4粒ずつ播種した苗を農業研究部のハウス（豊後大野市、標高151m）に定植し、定植時期や播種粒数の違いが生育や収量に及ぼす影響を調査しています。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.7.31
1870	農業研究部	<p>【「新茶シーズン到来!県産茶を飲みましょう!」運動】 (2025. 6. 14発信)</p> <p>6月11、12日の2日間、新茶の販売開始に併せ、センター来所者に「おいしいお茶の入れ方講座」を行いました。比較的低温（約70℃）で淹れることで、うま味の引き立ったお茶の試飲してもらいました。また、暑い時期の水分補給として、お茶の葉を使った冷茶の作り方も説明し、お茶の多様な楽しみ方を伝えることができました。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.6.30
1866	農業研究部	<p>【普及能力強化研修で講演しました】 (2025. 6. 6発信)</p> <p>6月2日にあるパークで地域農業振興課及び農業改良普及職員協議会主催の標記研修が開催され、普及指導員を中心に106名が参加しました。当チームから、ピーマン軟腐病の生態と防除について講演を行いました。講演後には、成果に結びつく試験設計についての質問や、猛暑対策と本病対策の両立を目指した交信攪乱剤の普及展示圃への支援要請がありました。引き続き、病害虫防除の情報共有や技術の向上に取り組んでいきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.6.30
1860	農業研究部	<p>【野菜の専門技術研修（1年目）を実施しました】 (2025. 6. 4発信)</p> <p>今年度新たに野菜の普及担当となった県職員とJA職員の12名を対象に、野菜1年目専門技術研修を実施しました。葉根菜類・茶業チームの圃場で、白ねぎの定植、かんしょの採苗・定植を行いました。作業中は小雨の降るあいにくの天気でしたが、実践的な技術を習得することができました。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.6.30
1857	農業研究部	<p>【転炉スラグ施用圃場でかんしょの定植をしました】 (2025. 5. 28発信)</p> <p>転炉スラグは長期間の土壌pH改良効果があり、キャベツなどのアブラナ科野菜で収穫量が増えることが確認されています。本試験では転炉スラグを施用した圃場で、輪作に使用可能な品目について検討しています。5月23日に農業研究部内圃場にてかんしょの定植を実施しました。今後、収量・品質や立ち枯れ症状の発生に注目していきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.6.30
1855	農業研究部	<p>【堆肥を用いた白ねぎの栽培試験を開始】 (2025. 5. 26発信)</p> <p>化学肥料の使用量を削減するために、堆肥を活用した白ねぎの栽培試験に取り組みます。5月15日に農業研究部の試験圃場（豊後大野市、標高151m）で定植を行いました。本試験では、堆肥の成分を分析し、供給される肥料成分を推測したうえで、施用する堆肥相当分の化学肥料を減らしました（75%減肥、56%減肥の2試験区）。今後は生育状況を調査し、堆肥活用の可能性を検証していきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1854	農業研究部	<p>【転炉スラグ施用によるメタン発生抑制効果の検証】 (2025. 5. 22発信)</p> <p>水田で水を溜めると土中の酸素が不足し、その影響でメタンガスが発生します。水田からのメタン排出量は、排出量全体の約1割を占めるといわれています。鉄分を含む転炉スラグは、鉄分が酸化剤として働くため、メタンガスの発生が抑制されると考えられています。メタン排出抑制効果を調査するため、5月14日に豊後大野市の現地圃場で転炉スラグの施用を行いました。今後、当圃場から発生するメタンの量を調査し、その効果を明らかにしていきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.6.30
1853	農業研究部	<p>【製茶作業の視察受け入れ】 (2025. 5. 17発信)</p> <p>県内NP0法人より県産茶試験研究の視察申し込みがあり、一番茶の生育状況や製茶工場の見学、研究内容について紹介しました。広い茶畑で動く茶摘み機や新芽の伸びた姿、大型の製茶機械等の見学により、試験研究への理解促進や県産茶消費拡大を期待しています。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.6.30
1850	農業研究部	<p>【転炉スラグの長期pH維持効果を活かしたニラの栽培調査】 (2025. 5. 14発信)</p> <p>転炉スラグの長期的なpH維持効果を活かすことで、多年性作物であるニラの収量および品質の向上に効果が認められるかを検討しています。本試験では通常栽培区と転炉スラグ施用区における収量や生育状況を評価しており、4月30日に今年度1回目の収穫調査を実施しました。今後も調査を継続し、ニラの長期栽培と転炉スラグの適合性を明らかにしていきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.5.30
1849	農業研究部	<p>【転炉スラグの施用によるもちとうきびの鉄分向上調査】 (2025. 5. 14発信)</p> <p>もちとうきびは子実鉄分を多く含む栄養価の高い穀物として注目されています。本調査では約20%の鉄分を含む転炉スラグを施用することで、子実中の鉄分を増加させることができないか検討しています。4月25日に播種を行い順調に発芽しました。今後、生育状況や収穫物の栄養成分を分析し、転炉スラグ施用の効果を明らかにしていきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.5.30
1848	農業研究部	<p>【豊後大野ピーマン部会講習会開催】 (2025. 5. 10発信)</p> <p>4月17日に豊後大野市大野公民館で標記講習会が開催され、生産者やJA、県職員など約40名が参加しました。病害虫対策チームよりアザミウマへの赤色防虫ネットの効果やピーマン斑点病への肥培管理試験について紹介しました。生産者からは、マニュアル化への要望もありました。今後も研修会等を通して情報共有や技術の向上に取り組んでいきます</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.5.30
1847	農業研究部	<p>【新茶の収穫が始まりました】 (2025. 5. 10発信)</p> <p>農業研究部の茶園（豊後大野市、標高約160m）で、5月1日から茶摘み、製茶を開始しました（昨年より1日遅れ）。今年は、3月以降がやや低温傾向であったため、比較的ゆっくりとした生育です。これから5月中旬にかけて茶摘みを行い、並行して茶葉の収量、品質分析などの調査を進めます。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.5.30
1846	農業研究部	<p>【かんしょ苗に炭酸ガスを施用しました】 (2025. 5. 10発信)</p> <p>県内で高糖度かんしょの産地拡大が進む一方で、定植適期(5月)の短期間に苗を確保することが課題となっています。そこで、炭酸ガスを育苗ハウスのトンネル内に施用し、苗の光合成を活性化することで、生育を促進することができないか調査しています。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.5.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1835	農業研究部	<p>【かんしょの条溝を抑制する試験を開始しました】 (2025. 4. 17発信)</p> <p>高精度かんしょ「べにはるか」を早期（4月上・中旬）に定植すると、「条溝」と呼ばれる縦方向の溝が発生し、外観が良くないことが課題となっています。そこで、本試験では、「条溝」の発生要因及び抑制する技術(対策：優良苗、マルチやトンネル被覆など栽培技術改善)について検討します。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.5.30
1834	農業研究部	<p>【AIを用いて茶の萌芽期を予測しています】 (2025. 4. 16発信)</p> <p>一番茶の摘採時期を判断するうえで、「萌芽期」を把握することは重要です。一方で、萌芽期の判断には個人差があること、茶園の面積が広大なことから、各圃場の萌芽期の把握には多大な労力を要します。当チームでは、スマートフォンで撮影した茶の樹冠面の画像から新芽を検出し、萌芽・未萌芽の判定を行うAIを作成しました。これにより、画像から一定の基準で萌芽期を判断するため、茶の品質・収量の安定化につながります。</p>		農業研究部 スマート・バイオチーム	0974-28-2079	2025.5.30
1833	農業研究部	<p>【茶の萌芽調査をしています】 (2025. 4. 16発信)</p> <p>茶の収穫適期の指標となる萌芽の調査をしています。農業研究部の標準的な茶園（豊後大野市、標高約160m：品種「やぶきた」）では、昨年よりも6日遅い4月11日に萌芽しました。気温の長期予報や平年値から推測すると、摘採日は昨年より3日遅い5月7日となりそうです。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.5.30
1832	農業研究部	<p>【白ねぎ（夏の宝山）の定植を行いました】 (2025. 4. 16発信)</p> <p>近年、海外情勢により化学肥料の価格が高騰していることから、昨年度に引き続き、肥料コスト削減を目的とした試験に取り組みます。4月9日に農業研究部の試験圃場（豊後大野市、標高151m）で白ねぎ品種「夏の宝山」の定植を行いました。今後、肥料の違いによる白ネギの生育や収量に及ぼす影響について明らかにする予定です。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.5.30

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点 (合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<p>②水田農業グループ (計22件)</p>						
2018	水田農業グループ	<p>【水田農業グループで研究員の資質向上セミナーを開催しました】 (2026. 3. 6発信)</p> <p>1月13日、水田農業グループが定期的に行っているゼミを開催しました。今回は北部振興局の黒木専門員を講師に、宇佐市でのエダマメ産地の成功事例についてお話しいただきました。このゼミでは、全く新しい産地をどのようにして作り上げるのか、関係機関や試験場との連携などの取り組みについて学びました。また津守研究員からは雑草の研修会の報告を行い、雑草の調査方法について学びました。今後も現場に寄り添った試験設計を行い、現場で役立つ農業技術の開発に取り組んでまいります。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2026.3.31
2007	水田農業グループ	<p>【水田農業グループで研究員の資質向上のためゼミを行いました】 (2026. 2. 7発信)</p> <p>1月13日、水田農業グループが定期的に行っているゼミを開催しました。今回は北部振興局の黒木専門員を講師に、宇佐市でのエダマメ産地の成功事例についてお話しいただきました。このゼミでは、全く新しい産地をどのようにして作り上げるのか、関係機関や試験場との連携などの取り組みについて学びました。また津守研究員からは雑草の研修会の報告を行い、雑草の調査方法について学びました。今後も現場に寄り添った試験設計を行い、現場で役立つ農業技術の開発に取り組んでまいります。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2026.2.28
2004	水田農業グループ	<p>【革新的稲作技術の研究推進会議が大分県で開催されました】 (2026. 2. 4発信)</p> <p>1月28日、29日生研支援センター「オープンイノベーション研究・実用化推進事業」(JPJ011937)の支援を受けて行っている「初冬から早春まで「いつでも直播」：春の作業ピークを平準化できる革新的稲作技術」の研究推進会議が大分県で開催されました。この研究は、冬から早春の間にイネの種もみを直播することで、春先の農作業を分散することができ、大規模農家の負担軽減などにつながることが期待されます。本年度の研究結果、残された課題について検討を行い、2日間にわたり活発な情報交換、議論をしました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2026.2.28
1994	水田農業グループ	<p>【水田農業グループ試験研究アドバイザー会議（完了課題結果検討会）を開催しました】 (2026. 1. 16発信)</p> <p>12月18日、九州大学の助教と農研機構のグループ長をアドバイザーとしてお招きし、水田農業グループのR8年新規課題と完了課題について検討を行いました。大豆新品種の栽培試験と水稲高温対策における新規試験については、的確なアドバイスをいただきました。完了課題については、評価をいただくとともに、今後の普及方法についてのご意見をいただきました。また、若手研究員とも積極的に意見交換し、有意義な会議となりました。今後も試験研究の精度向上のため、このような会議を開催する予定です。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2026.2.28
1988	水田農業グループ	<p>【「水田輪作新技術プロジェクト」キックオフフォーラムに参加しました】 (2025. 12. 26発信)</p> <p>12月11日に国の研究機関である農研機構主催の標記フォーラムが開催され、研究員が参加しました。水田農業では農業従事者の減少と担い手の大規模化が進む中、新技術の導入による生産性向上が急務となっています。本県でも同様の課題に直面しており、最新の情報を収集し必要に応じて国と連携も実施し、課題解決のための試験研究に取り組んでいます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2026.1.31

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1987	水田農業グループ	<p>【農業のリスク管理講習会に参加しました】 (2025. 12. 26発信)</p> <p>12月11日に農業者や関係機関を対象とする標記研修会が開催され、試験場の研究補佐をする職員が参加しました。農作業上の危険なポイントを学び、「GAP」を上手に活用してリスク管理を行うことの重要性を学びました。今後は、工程管理を意識して農作業事故の防止に努めるとともに、一層の生産安定、品質向上を目指します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2026.1.31
1966	水田農業グループ	<p>【麦の新しい播種方法に取り組みました】 (2025. 12. 2発信)</p> <p>福岡県の麦・大豆栽培で普及が進んでいる「部分浅耕-工程播種」に取り組みました。播種前の事前耕起がなく、表層のみを浅く耕起しながら同時に播種を行う技術で、湿害の軽減に加え、播種後の乾燥害対策としても効果があり、安定した出芽が期待できます。今後は、出芽率や初期生育、収量などの調査を行い、本県の麦作における有効性について検証していく予定です。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.12.31
1965	水田農業グループ	<p>【自動操舵システムによる麦類原種の播種を行いました！】 (2025. 11. 29発信)</p> <p>11月20日から、今年の麦類「原種（農家が使う種子をつくるための元となる種）」の播種作業を開始しました。今年度は、小麦「はるみずき」「テクゴイズミ」、大麦「トヨノホシ」の3品種を生産します。今年度、自動操舵システムを導入しました。これは、GPS（GNSS）の位置情報をもとに農機のハンドルを自動で操作し、まっすぐ均一に播種できる先端技術です。作業ムラが少なくなり、精度の高い播種につながります。こうした技術と、これまで培ってきた厳密な栽培管理を組み合わせることで、より高品質な「原種」の安定生産に取り組んでいきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.12.31
1964	水田農業グループ	<p>【米の食味官能試験が始まりました！】 (2025. 11. 29発信)</p> <p>新しい水稻品種を選ぶ際には、収量や品質だけでなく、「おいしさ（食味）」もとても重要です。当グループでは、今年収穫したさまざまな品種のお米を対象に、食味官能試験を実施しています。試験では、「外観」「香り」「味」「粘り」「硬さ」「総合」の6つの項目について、研究員などの評価者が実際に食べて採点します。これらの結果をもとに、次の時代に普及する可能性のある“おいしいお米”の選定を進めています。新しい品種を誰よりも早く味わえる楽しさがある一方、公平に評価するための緊張感も大きく、評価者にとっては責任ある試験です。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.12.31
1957	水田農業グループ	<p>【東部管内麦類播種前講習会に講師を派遣しました！】 (2025. 11. 18発信)</p> <p>東部振興局管内で開催された麦類播種前講習会の講師として「令和7年度はるみずき現地実態調査」の結果を説明しました。この調査は、現地の課題を解決するために振興局・水田農業グループが一緒に行ったものです。調査から、小麦子実タンパク質含有率向上に向けて「雑草対策」と「排水改善」が重要なポイントであることが分かりました。「はるみずき」の課題を解決するため、来年度も継続して調査と情報提供を行ってまいります。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.12.31

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1956	水田農業グループ	<p>【大豆原種「ちくしB5号」の収穫が始まりました！】 (2025. 11. 14発信)</p> <p>本年度、大分県では大豆栽培において従来品種「フクユタカ」から新品种「ちくしB5号」に全面転換しました。 水田農業グループでは、大豆採種生産者に供給する「ちくしB5号」の種子「原種」の収穫作業が始まりました。本年は、6月19、20日の適期播種に加え、生育期の灌水や病害虫防除の徹底などきめ細かな栽培管理により平年以上の収穫量が確保できました。 収穫後は良質な原種供給に向け、選別作業を行っていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.11.30
1937	水田農業グループ	<p>【水稲原種の収穫が始まりました！】 (2025. 10. 7発信)</p> <p>水稲採種生産者に供給する種子「原種」の収穫作業が始まりました。本年は「なつほのか」、「ヒノヒカリ」、「にこまる」の原種を生産しており、10月2日に「なつほのか」の収穫を行いました。大きな病害虫の被害もなく充実の良い種子が収穫できました。残りの品種についても、随時収穫を進めていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.10.31
1936	水田農業グループ	<p>【原種「なつほのか」の雑穂抜きが完了！～優良種子の確保に向けて～】 (2025. 10. 7発信)</p> <p>水田農業グループでは、来年以降の水稲栽培に使用される原種について、異形個体の抜き取り（雑穂抜き）を行っています。本作業は、種子の純度維持にかかわる重要な作業で、収穫前までに複数回実施します。 今度「なつほのか」の雑穂抜きを終えることができました。その他の品種についても収穫に向けて雑穂抜きを丁寧に行い、優良種子の確保に努めていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.10.31
1898	水田農業グループ	<p>【水稲奨励品種選定～生育状況を調査中～】 (2025. 8. 1発信)</p> <p>当グループでは、水稲・大豆・麦(小麦・大麦)の新品種を選ぶための試験を実施しています。 水稲品種の選定においては、収穫までの間に、出穂期や成熟期、病害虫および倒伏の発生程度などの調査を行っています。また、生育期間の草丈や茎数の推移もみること、細かな品種特性把握に努めています。 今後も地域に適した優良品種の選定と安定生産を目指していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.8.31
1897	水田農業グループ	<p>【良い作物は、良い種子から～水稲・大豆の「原種」の移植・播種作業が完了！】 (2025. 7. 23発信)</p> <p>来年以降の水稲・大豆の栽培に使用される種子（原種）について、今年度の移植および播種作業が完了しました。 水稲では「なつほのか」「ヒノヒカリ」「にこまる」の3品種、大豆では「ちくしB5号」「すずおとめ」の2品種を栽培しています。 今後は、病害虫の防除や異形株の除去などを丁寧に行い、農家の皆さんに良質な種子を安定して届けられるよう努めていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.8.31

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点



(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1886	水田農業グループ	<p>【水稲作柄判定試験開始～今年の稲の育ち方をチェック～】 (2025. 7. 9発信)</p> <p>6月20日、作柄判定試験ほ場に苗を移植しました。毎年同じ条件（播種日・移植日・苗の本数・施肥量）で稲を育て、天候が生育に与える影響を調べます。今年は茎数が平年より多い傾向にあります（7月4日調査）。今後も定期的に調査を予定しており、栽培管理の参考となる情報を引き続き発信していきます。詳しい調査結果は、当グループのホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.7.31
1871	水田農業グループ	<p>【除草剤を検証中～除草効果と安全性を見極める～】 (2025. 6. 16発信)</p> <p>6月6日に水稲除草剤適用性試験の移植を行いました。この試験は、水稲に使用する除草剤の効果や安全性、薬害等を確認するための試験です。また、さまざまな時期に薬剤を散布するため、畦波シートや杭を使って田んぼの中を区切り、試験区を設置しました。今後も水稲や雑草の生育を継続的に観察・記録し、生産者の皆さんが安心して使える除草剤の実用化に役立てていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.7.31
1861	水田農業グループ	<p>【環境にやさしい！新しい栽培方法の試験】 (2025. 6. 4発信)</p> <p>田んぼでの環境負荷を減らすため、プラスチックを使わない「ペースト状の肥料」を使った新しい栽培方法の試験を始めました。5月28日には、宇佐市内の農家さんの協力のもと、試験田で田植え作業を行いました。これからは、水稲の収穫量、品質を調べ、これまでの肥料と比べてどのような違いがあるかを確認していきます。持続可能な農業を目指して、引き続き取り組んでいきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.6.30
1859	水田農業グループ	<p>【優良種子を農家さんに届けるために～麦の「原種」収穫が始まりました～】 (2025. 6. 3発信)</p> <p>来年以降の麦栽培に使われる、大切な「元の種（原種）」の収穫が始まりました。今年は、裸麦「ハルアカネ」、小麦「はるみずき」と「チクゴイズミ」の3品種を栽培しており、今回はそのうち「ハルアカネ」の収穫を行いました。この「原種」は、農家の皆さんが麦栽培に使う種子の“もと”となる、重要な種子です。今後も他の品種の収穫を順次進め、農家の方々に安定して優良な種子を届けられるよう努めていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.5.30
1843	水田農業グループ	<p>【農業大学の学生を迎え、麦の研修を行いました】 (2025. 5. 8発信)</p> <p>4月30日、豊後大野市三重町にある県立農業大学校（農大）農学部 水田・露地野菜クラスの1・2年生18名を受け入れ、研修を実施しました。はじめに当グループの業務内容を紹介した後、農業機械の説明や麦の圃場観察を行い、麦の穂を使った品種当てクイズも実施しました。また、農大出身の職員が農機の案内を担当し、自身の体験を交えて農業のやりがいについて語りました。学生たちにとっては、現場を知り、今後の進路を考える貴重な機会となったようです。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.5.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1842	水田農業グループ	<p>【大麦の新品種選定に向け実需と場内圃場で検討】 (2025. 4. 25発信)</p> <p>当グループでは、水稻・麦(小麦・大麦)・大豆の新品種を選ぶための試験を実施しています。その一環で、4月22日に大麦の有望な品種について、実需者や国の試験場と検討会を行いました。認識を共有し今後の品種選定に向けた有意義な機会となりました。今後も地域に適した優良品種の選定と安定生産を目指していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.5.30
1838	水田農業グループ	<p>【麦類が出穂期～穂揃い期を迎えました】 (2025. 4. 19発信)</p> <p>麦類が出穂期～穂揃い期となり、開花期を迎えようとしています。天候が不安定ではありますが、これからの作業として2回の赤カビ病防除を徹底しましょう。 【散布時期の目安】 1回目:開花期(大麦の場合は蒴殻抽出期) 2回目:1回目の散布の一週間後</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.5.30

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<p><b>③果樹グループ (計13件)</b></p>						
2013	果樹グループ	<p>【柑橘の剪定研修会が開催されました】 (2026. 2. 22発信)</p> <p>果樹普及指導員、農協、市役所職員を対象とした柑橘剪定研修会が当チームで開催されました。広域普及指導員による実演の後、参加者は経験者を含めたグループに分かれ、剪定を実践しました。当チームからは研究員2名が参加し、各グループで実践指導に当たりました。知識を実践に落とし込み、指導することの難しさを改めて認識できた有意義な研修となりました。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0408	2026.3.31
2003	果樹グループ	<p>【令和7年度園芸品評会の審査会に研究員が出席】 (2026. 2. 3発信)</p> <p>毎年開催される杵築市農林水産祭の農産物品評会では、当グループの研究員が事前審査に立ち合います。1/16に杵築市で開催された審査会では、管内の生産者からハウス中晩柑、露地中晩柑、温州ミカンで総数81点の応募がありました。全体のレベルが高い中、果実の食味や外観に関する厳正な審査が行われ、最優秀賞が6点、優秀賞11点が選ばれました。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2026.2.28
2002	果樹グループ	<p>【運搬車を活用した低コストな防除技術の試験を開始】 (2026. 2. 3発信)</p> <p>近年、果樹の大規模経営で一般的なスピードスプレーヤ（高額な病害虫防除機械）は価格が値上がりし、導入へのハードルが高まっています。よって当グループでは、R7年度から低コストで汎用性の高い運搬車を用いた病害虫防除技術の確立を目的とし、樹形改造や薬剤散布方法の最適化といった試験研究に取り組んでいます。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2026.2.28
1997	果樹グループ	<p>【カンキツ貯蔵病害の対策について】 (2026. 1. 19発信)</p> <p>貯蔵中のカンキツを腐敗させる主因として、貯蔵病害（緑かび病、青かび病、軸腐病）があります。現在、貯蔵病害に対して広く使用されていた農薬の登録失効に伴い、代替剤の効果検証が進められ、当チームでも薬剤試験を行っています。貯蔵病害を防ぐには、収穫前薬剤散布とともに、収穫時に果実を傷つけないように丁寧に扱うことが重要です。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2026.2.28
1990	果樹グループ	<p>【2026年度果樹病害虫防除暦の検討会議を行いました】 (2025. 12. 27発信)</p> <p>今年は高温の時期が長く続いたことや降水量が少ない影響で害虫の発生状況も例年と異なり、防除が難しい年でした。特にサビダニの被害が多く見られ、秋の防除の重要性を認識させられました。 今後、防除の効果やコスト、防除のしやすさなどを踏まえて、より良い薬剤への入れ替えを検討し、生産者にとってわかりやすく役に立つ暦の作成に取り組んでいきます。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2026.1.31
1989	果樹グループ	<p>【R7園芸学会（秋）でハウスミカン光合成とCO2局所施用について発表】 (2025. 12. 27発信)</p> <p>当チームでは、国や大学等と共同でハウスミカンの収量向上に向けた研究に取り組んでいます。一部成果が得られたので、高知大学で開催された園芸学会において、新たな光合成評価法とハウス内CO2濃度分布に関する研究について発表を行いました。本発表では、好意的な意見や研究方法に関する専門家からの助言などが得られ、今後の業務への参考となりました。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2026.1.31

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1971	果樹グループ	<p>【新規採用研究員、日々頑張ってます】 (2025. 12. 7発信)</p> <p>令和7年11月10～14日の5日間、農家の実情を学ぶ「現場体験研修」で、地域ブランド「サンクイーン」の栽培上重要な「サンテ掛け」作業を経験してきました。日々たくさんのことを学びながら半年が過ぎ少し遅くなった研究員、今後も一人前の研究員になるべく、研鑽を重ねていきます。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2025.12.31
1970	果樹グループ	<p>【「セミノール」栽培の作業効率化を検証しています】 (2025. 12. 6発信)</p> <p>県南部が産地の「セミノール」は、果皮の赤みが特徴的で人気があり、生産量は全国2位を誇ります。しかし、この赤みを収穫する3月まで退色を防ぐため、農家はサンテという果実袋を1果ずつかける大変な作業をしています。果樹グループでは、その負担を減らすため樹形改造を行い効率化できないかを検証する現地試験をしています。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2025.12.31
1935	果樹グループ	<p>【おおいたAFF女性ネットワーク研修】 (2025. 10. 4発信)</p> <p>おおいたAFF女性ネットワークは、大分県内の農林水産業に携わる女性で組織され、各種セミナー等で経営能力等の向上や会員同士の交流・研鑽が図られています。 令和7年9月17日に温州ミカンチームで室内・圃場研修が行われました。研修ではカンキツの垣根樹形に多くの関心が寄せられ、活発な意見交換が行われまし</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2025.10.31
1900	果樹グループ	<p>【極早生梨の収穫が始まりました】 (2025. 8. 2発信)</p> <p>落葉果樹チームでは25種類以上のナシを栽培しており、7月23日からナシ品種「はつまる」を先頭にナシの収穫がスタートしました。8月上旬には「香麗」「あまひびき」等、極早生品種の収穫がピークを迎えます。本年は高温の影響からか平年よりやや早い収穫となっています。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2025.8.31
1899	果樹グループ	<p>【ハウスミカンFS生の栽培研修が行われました】 (2025. 8. 2発信)</p> <p>杵築市と日出町のFS（ファーマーズスクール）生の研修が令和7年6月16日に温州ミカンチームで行われました。ハウスミカン栽培管理の基本と垣根仕立て栽培等について、圃場を見学しながら意見交換が行われ、作業の軽労化、高品質果実生産といった若手生産者のニーズを知ることができました。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2025.8.31
1896	果樹グループ	<p>【ブドウのビニールはぎと防鳥ネット張り】 (2025. 7. 18発信)</p> <p>梅雨が早く明けたので、落葉果樹チーム全員で屋根掛けブドウのビニール剥ぎを行いました。その後、カラスなどの鳥害を防止するために防鳥ネットを張りました。 曇天日でしたが、それでも非常に暑く、こまめな水分補給で熱中症対策を十分に心掛けました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2025.8.31
1885	果樹グループ	<p>【柑橘の栽培管理研修会が開催されました】 (2025. 7. 5発信)</p> <p>令和7年6月27日に採用1,2年目の果樹担当普及職員等を対象に、柑橘の基礎を学ぶ研修が行われました。午前中に座学、午後から重要な作業である「摘果」について実習しました。梅雨明け発表直後の暑い中でしたが、参加した職員はみんな真剣に取り組んでいました。今後も普及職員の成長を促せるよう技術研修を重ねていきます。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2025.7.31

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
------	-----	------	-------	------	------	------

### ④花きグループ

(計5件)

1980	花きグループ	<p>【大分県オリジナルスプレーギクの作出に向け選抜を行っています！】 (2025. 12. 14発信)</p> <p>花きグループでは、輪ギクの主力品種と組み合わせの可能なスプレーギクの育種に取り組んでおり、系統選抜調査を行っています。昨年度75系統から二次選抜した48の大分県育成系統について特長の評価を行い、20系統程度に絞っていきます。</p>		農業研究部 花きグループ	0977-66-4706	2025.12.31
1917	花きグループ	<p>【11月～12月咲のトルコギキョウを定植しました。】 (2025. 9. 2発信)</p> <p>トルコギキョウは、種苗会社から毎年新たな品種が育成されていますが、本県への適性については明らかになっていません。花きグループでは、新品種の比較試験を行い、地域の気候に適した品種を検証しています。11月～12月の開花時期には生産者を対象にした品種検討会の開催を予定しています。</p>		農業研究部 花きグループ	0977-66-4706	2025.9.30
1909	花きグループ	<p>【小実系ホオズキの優良系統選抜を行いました】 (2025. 8. 19発信)</p> <p>大分県は日本一の生産県であり、現在、大実系と呼ばれる大きな実のホオズキが主流ですが、近年のニーズの多様化に伴い、小さな実の小実系ホオズキへの関心が高まっています。花きグループでは、小実系ホオズキの優良系統選抜を進めており、今後もより商品価値の高い品種の育成を図っていき新たなニーズに対応していきます。</p>		農業研究部 花きグループ	0977-66-4706	2025.9.30
1868	花きグループ	<p>【秋収穫作型のホオズキを定植しました。】 (2025. 6. 11発信)</p> <p>ホオズキには「お盆の花」というイメージが強くありますが、新たな需要の拡大を目指し、周年栽培の可能性について栽培試験を行っています。本年度は、ハロウィン需要を見込んだ9月収穫の作型試験に取り組んでおり、5月中旬から6月上旬にかけて定植を行いました。今後は生育状況などの調査を進めていく予定です。</p>		農業研究部 花きグループ	0977-66-4706	2025.6.30
1841	花きグループ	<p>【花きグループで育種中のスイートピーを佐伯市のスイートピー生産者が視察に訪れました】 (2025. 4. 24発信)</p> <p>佐伯市のスイートピー生産者が、花きグループで育種中の新品種の視察に訪れ、種採りをしているハウスで、花の色や形、輪数を見ながら、研究員の説明を受けました。有望な品種については、今年度、現地で試作を行う予定です。</p>		農業研究部 花きグループ	0977-66-4706	2025.5.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<b>⑤畜産研究部 (計15件)</b>						
2029	畜産研究部	<p>【転炉スラグを用いた牧野研修会が開催されました】 (2026. 3. 27発信)</p> <p>3月18日に豊肥振興局主催、日本製鉄株式会社協力のもと「国産飼料生産・利用拡大緊急対策事業説明会及び牧野研修会」が畜産研究部で開催されました。牧野研修では、転炉スラグの散布実演や耐暑性のある牧草品種の紹介を行いました。転炉スラグは、近年価格が高騰している土壌改良材の代わりとして活用され、効果が長期間におよぶことが期待されており、竹田市の牧野組合を中心に利用が検討されています。当研究部でも牧草地での活用試験を実施しており、途中経過を発信していきたいと思っております。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2026.3.31
2026	畜産研究部	<p>【就農準備研修（畜産コース）閉講式が行われました】 (2026. 3. 21発信)</p> <p>3月9日に令和7年度大分県就農準備研修の閉講式が行われ、今年度の研修が終了しました。畜産コース2名の研修生は、11カ月間、畜産研究部や農業大学校で畜産の知識や技術を実践的に学ぶとともに、畜産経営に必要な大型特殊免許や家畜人工授精師免許などの各種資格取得や県外視察研修も行いました。研修を終えた2名は、今後就農する予定です。新たな担い手としての活躍をとっても期待しています。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2026.3.31
2024	畜産研究部	<p>【令和7年度肉用牛改良研修会を開催しました】 (2026. 3. 13発信)</p> <p>R8. 2. 26(木)に別府市で大分県肉用牛改良組合連合会と大分県家畜人工授精師協会の共催により「肉用牛改良研修会」を開催しました。会員及び関係者約100名が参加しました。「購買者が求める牛と子牛品質」や「登録事業を通じた和牛DNAデータベースの活用」について講演をしていただき、活発な意見交換が行われました。また、畜産研究部からは県有種雄牛の活用について情報提供を実施し、肉用牛改良の推進に繋がる有意義な研修会となりました。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2026.3.31
2019	畜産研究部	<p>【牛の削蹄研修会を開催しました】 (2026. 3. 7発信)</p> <p>R8. 2. 27に牛の削蹄研修会を開催しました。肉用牛生産者や畜産後継者の4名が受講し、削蹄師資格を持つ職員がマンツーマンで講師を務めました。牛の蹄は伸び続けるため定期的に切る必要があります。削蹄は牛の健康維持、生産性向上のためには欠かせない作業ですが、技術習得が難しく危険を伴うことや削蹄師不足などで対応に苦勞している生産者も多い状況です。この研修を通じて得た技術を実践していただければと思います。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2026.3.31
1977	畜産研究部	<p>【家畜人工授精講習会(牛)が修了しました】 (2025. 12. 12発信)</p> <p>家畜人工授精講習会(牛)がR7. 10. 29～12. 3の5週間、畜産研究部で開催されました。一般7名・農大生1名が受講し、当研究部職員等が講師を務めました。長期間の講習会でしたが、受講生は誰一人休むことなく修業試験の合格と免許取得に向け、熱心に講義と実習に励みました。全員試験に合格し、人工授精師として活躍されることを切に願っています。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.12.31

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1946	畜産研究部	<p>【試験研究成果の発表を行いました】 (2025. 10. 29発信)</p> <p>「大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会」が開催され、畜産研究部から研究員4名が研究発表を行いました。この会は畜産関係県機関の業務成果を発表し技術向上を目的としています。当部の発表内容はどれも高い評価を受けました。今後も引き続き生産者に役立つ研究に励みます。発表会の内容は後日まとめられ大分県農林水産部畜産振興課のHPに掲載されますので御覧ください。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.11.30
1931	畜産研究部	<p>【九州大学学生の視察研修を行いました】 (2025. 9. 19発信)</p> <p>畜産研究部では毎年、九州大学農学部学生の視察研修を受け入れており、今年度も6月～9月に計94名の学生が研修を行いました。畜産研究部の研究概要について説明した後に牧場を見学し、畜産研究部の取組みや種雄牛造成について知っていただきました。受講した学生の皆さんが農業畜産の発展に貢献されることを期待します。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.10.31
1916	畜産研究部	<p>【家畜体内受精卵移植（牛）講習会を開催しました】 (2025. 8. 30発信)</p> <p>畜産研究部で4月～3月までの11カ月間就農準備研修を行っている2名の研修生が、削蹄の実習を行いました。職員指導の元、道具の使い方や削蹄手順を学び、削蹄技術の習得に向け取り組んでいます。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.9.30
1915	畜産研究部	<p>【家畜体内受精卵移植（牛）講習会を開催しました】 (2025. 8. 30発信)</p> <p>6月30日～8月6日までの約1カ月間、家畜改良増殖法に基づく牛の家畜体内受精卵移植講習会を開催しました。講習会は2年に1度実施しており、「受精卵の生理及び形態」や「受精卵の処理」に関する講義や、実際の牛を使用した移植実習等を行いました。講習会終了後は修業試験（学科・実地）を行い、合格者は免許申請をすることができます。今回は8名が合格し、今後は11月頃に毎年行っている家畜人工授精講習会も開催予定です。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.9.30
1882	畜産研究部	<p>【若手普及指導員の研修を行いました】 (2025. 7. 2発信)</p> <p>今年度採用された畜産普及指導員4名を対象に6月18日～20日の3日間、豚、鶏、酪農に関する研修を行いました。広域普及員や畜産研究部の職員が講師となり、基礎的な知識を学んだ後に実習を行いました。写真はおおいた冠地どりの種鶏について説明しているところです。研修を通じて学んだことを活かして、生産者の皆さんの役に立てるよう各地で普及活動に取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.7.31
1881	畜産研究部	<p>【久住高原農業高等学校で削蹄を支援しました】 (2025. 7. 2発信)</p> <p>大分県立久住高原農業高等学校は、R8年1月に開催される第9回和牛甲子園出場に向けて取り組みを行っています。和牛甲子園は全国の高校生が和牛飼育の取組みを発表し枝肉成績を競う大会です。当研究部を含めた関係機関で飼養管理技術の支援を行っており、今回は牛の保定や削蹄を指導しました。大会で良い成績が出せるよう今後も支援を行っていきます。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.7.31

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1877	畜産研究部	<p>【獣医インターンシップ研修を行いました】 (2025. 6. 27発信)</p> <p>大分県職員（獣医師）の仕事に興味がある大学生を対象にインターンシップを実施し、研究部内を見学しながら業務内容について説明を行いました。毎年、獣医師及び畜産職に関するインターンシップの受入れを行っていますので、興味のある方は大分県ホームページからお申し込みください。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.7.31
1869	畜産研究部	<p>【家畜保健衛生所新採用職員の研修（牛）が開催されました】 (2025. 6. 13発信)</p> <p>令和7年6月4日に家畜保健衛生所に採用された職員等を対象に牛に関する繁殖技術研修が行われました。牛の保定や体測、肥育牛の採血、直腸検査による妊娠・発情鑑定など実践的な技術を習得しました。今回の研修で学んだことを活かして、生産者の皆様の役に立てるように頑張りますのでよろしくお願ひします。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.6.30
1852	畜産研究部	<p>【久住高原農業高等学校で和牛甲子園出場に向けた技術支援を行いました】 (2025. 5. 16発信)</p> <p>大分県立久住高原農業高等学校は、R7年1月に開催された第8回和牛甲子園に初めて出場しました。和牛甲子園は全国の高校生が和牛飼育の取組みを発表し枝肉成績を競う大会です。現在、第9回への出場に向け当研究部を含めた関係機関で飼養管理技術支援をしており、今回は振興局等と共に肥育の基礎知識に関する指導を行いました。今後も大会出場に向けて支援を行っていきます。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.6.30
1839	畜産研究部	<p>【就農準備研修（畜産コース）開講式が行われました】 (2025. 4. 23発信)</p> <p>令和7年度就農準備研修開講式が行われました。今年度は2名が受講し、4月～3月までの11カ月間、畜産研究部及び農業大学校で畜産の知識や技術を学ぶとともに、家畜人工授精師等の免許取得を行います。就農を目指して頑張りますので応援をお願いします。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.5.30

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点 (合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<b>⑥林業研究部 (計26件)</b>						
2031	林業研究部	<p>【日本木材学会において3名がポスター発表】 (2026.3.28発信)</p> <p>当研究部木材チームの山本上席主幹研究員が、第76回日本木材学会において地域学術振興賞を受賞しました。</p> <p>これは、県産スギ材の建築用材等への利活用に関するこれまでの取り組みが大きく評価されたものです。山本上席主幹研は令和5年度に全国林業試験研究機関協議会において第36回研究功績賞を受賞しており、これに続く表彰となりました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2026.3.31
2030	林業研究部	<p>【日本木材学会において3名がポスター発表】 (2026.3.28発信)</p> <p>広島市において3月16日から3日間の日程で、第76回日本木材学会大会が開催され、当研究部の木材チームから3名が日頃の取り組み成果についてポスター発表を行いました。</p> <p>特に大分県ではスギ特定樹やスギ大径材の取り組みが進んでおり、関連発表では盛んな質疑応答が行われ、有益な情報交換ができました。</p> <p>【発表内容】 スギ特定母樹材質特性 丸太の材質特性 (加茂主任研究員) スギ特定母樹材質特性 強度分布 (河津研究員) ・大分県産スギ大径材の利活用に関する研究 寸法型式210, 212, 204W, 304, 306, 404, 405, 406, 408の引張強度について佐藤研究員)</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2026.3.31
2025	林業研究部	<p>【ひた森の担い手づくり協議会視察来訪】 (2026.3.20発信)</p> <p>3月7日、ひた森の担い手づくり協議会22名が視察来訪しました。この協議会は、将来の森林づくりの担い手育成のために日田地区の林業関係団体で組織されたもので、新たな林業従事者の窓口となっています。</p> <p>今回は、県や林業研究部の取組みの講義や、早生樹(特にスギ特定母樹やコウヨウザン)について、場内園場等を視察されました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2026.3.31
2017	林業研究部	<p>【ヒノキ特定母樹採穂園の造成】 (2026.3.5発信)</p> <p>大分県では、成長が良く花粉の少ないスギ特定母樹8品種を造林推奨品種として指定し、造林を奨めていきます。</p> <p>一方で、ヒノキは特定母樹に指定されている種類が少ないことから、少しでも早く現地に対応できるようにするため、当研究部内に新たに「ヒノキ特定母樹」の採穂園を造成しました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2026.3.31
2016	林業研究部	<p>【ヒノキ雄花着花性に関する特性調査】 (2026.3.5発信)</p> <p>当研究部では今年度から、ヒノキの花粉症対策として、国の研究機関である林木育種センター九州育種場等と共同で、将来に向けた「少花粉ヒノキ」に関する調査・研究を進めています。</p> <p>今回、九州育種場の研究員と調査方法について、現地で検討会を開催しました。</p> <p>今後も引き続き、成長や形質が良く花粉の少ないヒノキの選抜について取り組んでいきます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2026.3.31

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
2015	林業研究部	<p>【ヒノキの採穂技術研修会】 (2026. 3. 4発信)</p> <p>2月10日に当研究部ヒノキ採穂園において、森林整備室の主催で採穂技術研修会を開催しました。 林木育種センター九州支所の研究員を講師に招き、県内樹苗生産者、各振興局担当者等36名が参加のもと、ヒノキのさし木苗生産に係る採穂技術の研修が行われ、生産者から様々な質問があげられました。 大分県としてもヒノキの造林面積拡大を進めており、この研修会が一助となればと考えます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2026.3.31
2014	林業研究部	<p>【大分県森林づくり委員会が視察来訪】 (2026. 3. 4発信)</p> <p>2月10日に県内の林業関係有識者で組織される「大分県森林づくり委員会」の13名が当研究部の視察に訪れました。 短い時間でしたが、当研究部の取組みを説明し、その後、場内視察を行いました。 特に早生樹について関心を持たれ、活発な意見交換を行うことができました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2026.3.31
2010	林業研究部	<p>【県樹苗協との共同試験発表会】 (2026. 2. 10発信)</p> <p>当研究部では、県樹苗協と共同で苗木生産に関する試験を実施しており、1月29日に林業研究部会議室において発表会を開催しました。生産者等24名を対象に、研究成果の発表を行いました。 今回の発表成果を踏まえ、今後の取り組みに対する展開の要望や生産現場における課題などの情報交換を行いました。 この共同研究は引き続き継続し、生産現場の問題の把握と成果の早期普及に努めます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2026.2.28
2009	林業研究部	<p>【林業研究部研究発表会】 (2026. 2. 10発信)</p> <p>1月27日に当研究部会議室において令和7年度の林業研究部研究発表会を開催し、56名の参加をいただきました。完了予定課題を含む4課題の研究成果について発表を行い、参加者から様々なご質問をいただきました。 今回の発表内容については、追加試験の内容を加えて、年報等で発表していきます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2026.2.28
1995	林業研究部	<p>【日田高校「日田杉」勉強会】 (2026. 1. 17発信)</p> <p>12月18日、県立日田高等学校2年生5名が「日田杉の性質を調べ、日田杉を広めたい」との意識のもと「建築材料としての日田杉の強度」について自主探求授業の一環で、当研究部を訪れ、勉強会を開催しました。 勉強会では、品種、材質、強度等の特性についての考え方を学び、実際に実大強度試験を見学しました。自分達で考えてきたことに加え、現場の知識を得ることで今後の取り組みがさらに深まることを期待しています。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2026.2.28
1975	林業研究部	<p>【日田の木と暮らしのフェア】 (2025. 12. 10発信)</p> <p>12月7日に、日田の木と暮らしのフェアがパトリア日田で開催されました。この催しは毎年この時期に開催されており、林業研究部も研究成果のPRと木育体験を実施しています。 今年は、研究成果パネルの展示と、筆立ての木工教室(41名参加)の開催、白いスギの穂木の展示等を行いました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.12.31

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1961	林業研究部	<p>【日田林工インターンシップ】 (2025. 11. 22発信)</p> <p>11月12日に、日田林工2年生1名をインターンシップとして受け入れました。これは、県西部振興局と連携して3日間行われるもので、将来の職業として大分県職員を選択してもらおうという取り組みです。今回は、実際の課題に沿って、苗木の生産実習やコウヨウザンの実大強度試験を体験してもらいました。 今回の研修が、将来の進路として参考になったらと思います。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.12.31
1949	林業研究部	<p>【白いスギ?】 (2025. 11. 1発信)</p> <p>林業研究部には数多くのスギが植林されていますが、その中の1本に一部だけ白いスギの葉が見られました。 これはアルビノと呼ばれるもので、この葉の部分だけ葉緑素がないことから白くなったものと考えられ、非常に珍しいものです。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.11.30
1948	林業研究部	<p>【九州森林学会】 (2025. 11. 1発信)</p> <p>10月25～26日に福岡市で九州森林学会が開催されました。林業研究部からは米木主幹研究員が「航空レーザ測量成果を活用した大分県スギ人工林適地判定マップの検証」について発表を行いました。 この成果については、後日、林業研究部の研究発表会でも報告する予定です。</p>	 <p>発表の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.11.30
1939	林業研究部	<p>【インターンシップ受け入れ】 (2025. 10. 9発信)</p> <p>9月8日に、大学生1名をインターンシップとして受け入れました。将来の職業として大分県の林業部門を一つの候補として検討しているとのことで、県庁林務管理課をはじめ、振興局等での研修を行う一環で、試験研究部門としての研修を行いました。早生樹や木材利用に関する研究課題を体験してもらったのですが、近い将来、大分県の林業研究員として着任してくれることを期待しています。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.10.31
1924	林業研究部	<p>【コウヨウザン合板の耐力壁強度試験】 (2025. 9. 11発信)</p> <p>当研究部では、早生樹のひとつである「コウヨウザン」についての試験研究を実施しており、今回、大分大学の協力のもと、コウヨウザンを用いた在来軸組工法用耐力壁の検討を目的とした強度試験を行いました。 今回は公開試験として、研究協力をいただいた大分森林管理署、新栄合板工業株式会社、林業普及指導員等の参加のもと行いました。 この結果については、取りまとめた後、公表していきたいと考えています。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.9.30
1923	林業研究部	<p>【おおいた林業アカデミー視察研修】 (2025. 9. 11発信)</p> <p>7月25日に、おおいた林業アカデミー研修生等11名が当研究部を来訪し、県の試験研究や木材の性質等に関する講義や丸太の強度測定実習などを受講しました。 「川上」と呼ばれる山林における植林や育林、伐採、搬出などの知識や技術習得を学ぶ彼らにとって、「川下」と呼ばれる木材の加工や利活用を学ぶことは、自分たちの仕事の成果を確認する重要な時間となります。 研修生からは木材に関する具体的な質問があり、有意義な研修となりました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.9.30

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1903	林業研究部	<p>【ヒノキ花粉症対策】 (2025. 8. 8発信)</p> <p>当部では今年度から国の試験研究機関である林木育種センターから委託を受け、昨今の花粉症対策ニーズに対応するため、ヒノキのエリートツリー等の少花粉品種の開発を短期間で進めるための取り組みを始めました。</p> <p>場内の採穂園においてヒノキにジベレリン（植物の成長や開花などを促進する植物ホルモンの一種）を接種し、今後の雄花着花状況を調査していきます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.8.31
1902	林業研究部	<p>【九州地区林業試験研究機関連絡協議会場所長会議】 (2025. 8. 8発信)</p> <p>7月28日～29日に、九州内の国や県の林業関係公設試験研究機関場所長会議が開催されました。</p> <p>今年度から各県持ち回り開催となり、大分県が最初の開催地に選ばれました。会議では各機関から情報が持ち寄られ、試験研究に関する情報交換や国等への要望について議論されました。会議終了後、場内施設の視察を行うと、各県の場所長から施設や研究に関する様々な質問が寄せられました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.8.31
1901	林業研究部	<p>【試験研究機関における林業全般基礎研修・実践研修】 (2025. 8. 8発信)</p> <p>7月23日～24日に、採用4年目の林業職員や市町村職員、林業普及指導員を対象に、試験研究機関の取り組みに関する研修会を開催し、16名の参加がありました。</p> <p>県産材の乾燥技術や強度測定、スギ等の育種、鳥獣害対策と幅広い分野に関する研修を行いました。</p> <p>普段の業務に加え、試験研究分野の知識を学ぶことによりエキスパートと呼べる人材に成長してくれるものと期待しています。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.8.31
1864	林業研究部	<p>【九州地区林業試験研究機関協議会木材加工部会の開催】 (2025. 6. 5発信)</p> <p>5月27日から28日にかけて、九州地区内の木材関係公設試が一堂に会し、木材加工部会担当者会議を開催しました。</p> <p>大分県が取り組むスギ大径材の利活用に関する課題をはじめとして、各県が抱える木材加工に関する課題についての情報共有や意見交換などが活発に行われました。</p> <p>会議後、当研究部の施設見学を行うとともに、今後連携促進に努めることとしました。</p>	 <p>会議の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.6.30
1863	林業研究部	<p>【抵抗性クロマツの剪定】 (2025. 6. 5発信)</p> <p>当部では抵抗性クロマツの採穂園と採種園を整備し管理しており、先日採穂園の剪定を行いました。クロマツは、主に海岸防災林造成のため植栽されています。</p>	 <p>剪定の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.6.30
1862	林業研究部	<p>【研究用冷蔵庫の新設】 (2025. 6. 5発信)</p> <p>当部では今年度から「スギ苗木生産における通年作業の確保に関する研究」として、夏場にも苗木生産作業を行うことで、苗木生産自給率を向上するための取り組みを進めています。</p> <p>春先に採穂した穂木を冷蔵保存し、さし付け等苗木生産を可能とする期間を夏場にまで延長するため、新たに保管用冷蔵庫を導入しました。</p> <p>この成果は随時、苗木生産業者等へ普及する予定です。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.6.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1845	林業研究部	<p>【県産スギ大径材の利活用】 (2025. 5. 9発信)</p> <p>スギの高齢級・大径化が進み、今後の利活用が問題となっています。そこで、当部では令和6年度から、このスギ大径材の2×4材等への利活用に向け、曲げ強度や引張強度当の試験を行い、いつでも木造建築へ使用できるよう、データの集積を進めています。 現在は、今秋に国の試験研究機関において実施する引張試験用の試験体を準備しているところです。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.5.30
1844	林業研究部	<p>【早生樹コウヨウザンの実大強度試験】 (2025. 5. 9発信)</p> <p>当県では令和3年度に「コウヨウザン」が造林補助対象樹種となりましたが、造林が進んでいないのが現状です。 今回、コウヨウザンが建築用材として使用できることを確認すべく、佐伯市直川の国有林で伐採された丸太を製材し、実大サイズの製材品で強度試験を行うこととしました。 現在、本来の担当である森林チームと強度試験を担当する木材チームが連携して製材作業にあたっています。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.5.30
1830	林業研究部	<p>【無花粉スギの選抜】 (2025. 3. 21発信)</p> <p>今や国民病と呼ばれる「花粉症」。林業研究部では、その中でもスギの花粉症対策の研究を進めています。 スギの中で無花粉遺伝子を持つ品種を選び出し、その花粉を成長の良い品種などに受粉させることで、新たに花粉がほとんど出ない上に、成長の良いスギの選抜を行っています。 現在、県では成長が良く花粉が少ないとされるスギ8品種を造林推奨品種として選定し、今後の森林づくりに取り組んでいます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.4.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<b>⑦きのこグループ (計6件)</b>						
2000	きのこグループ	<p>【きのこグループ研究発表会を開催】 (2026. 1. 24発信)</p> <p>1月20日に令和7年度きのこグループ研究発表会を開催し、生産者など約70名の参加がありました。研究発表課題は以下のとおりです。</p> <p>(1) 原木の伐採・玉切り時期の検討 (松本研究員) (2) 乾シイタケの機能性成分について (豊田研究員) (3) 新品種9-46(仮称)の特性評価試験 (石原主幹研究員、寄井田広域普及員)</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2026.2.28
1962	きのこグループ	<p>【9-46(仮称)が発生シーズンを迎えました】 (2025. 11. 23発信)</p> <p>6月6日に場内で発生した乾しいたけの選別作業を行いました。選別は、まず選別機(写真)で大きさ別に5種類に分別し、その後は一枚ずつ手作業で厚いもの(厚肉系)、薄いもの(薄葉系)、大きく開いたもの(バレ葉)の3種類に分別します。今春は平年並みの作柄ですが、気温上昇後の3月中下旬に集中的に発生したため、全体的に小ぶりで薄葉系やバレ葉が多い傾向です。今後は発生データ等を分析し研修会等に活用します。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2025.12.31
1895	きのこグループ	<p>【乾シイタケ新品種に向けた判定会の開催】 (2025. 7. 17発信)</p> <p>原木乾シイタケ用品種育成の取り組みとして、新品種の選抜を行う判定会を開催しました。判定会では、しいたけ種菌メーカーの研究員等に参加頂き、発生量・形状・発生時期等を審査しました。高評価の品種については、今後、生産者の協力を得て現地栽培試験を行うこととしています。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2025.8.31
1880	きのこグループ	<p>【原木シイタケの活着調査を行いました】 (2025. 7. 2発信)</p> <p>令和7年春に植菌した試験用のほだ木から種コマを抜き取り、シイタケ菌がほだ木に活着しているかどうかを調査しました。4月の少雨による活着不良が心配されましたが、活着状態は概ね良好でした(左下写真: 種駒の先が白く発菌している)。 調査データは、ほだ木材表面の伸長状況調査(8月)の結果と併せて、研修会等で活用する予定です。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2025.7.31
1874	きのこグループ	<p>【乾しいたけの食味試験を行いました】 (2025. 6. 24発信)</p> <p>きのこGが開発した新品種9-46(仮称)の食味試験を行いました。市販の3品種と食べ比べを行い「旨味」「香り」「歯ごたえ」など、6項目について評価してもらいました。 今後は更に多くの人に評価して頂き、そのデータを集計・分析し、どのような特徴があるかを消費者に分かりやすく提供することとしています。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2025.7.31
1872	きのこグループ	<p>【乾しいたけの選別作業～出荷準備～】 (2025. 6. 18発信)</p> <p>6月6日に場内で発生した乾しいたけの選別作業を行いました。選別は、まず選別機(写真)で大きさ別に5種類に分別し、その後は一枚ずつ手作業で厚いもの(厚肉系)、薄いもの(薄葉系)、大きく開いたもの(バレ葉)の3種類に分別します。今春は平年並みの作柄ですが、気温上昇後の3月中下旬に集中的に発生したため、全体的に小ぶりで薄葉系やバレ葉が多い傾向です。今後は発生データ等を分析し研修会等に活用します。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2025.7.31

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<b>⑧水産研究部 (計10件)</b>						
2012	水産研究部	<p>【水産技術職員研究発表会を開催】 (2026. 2. 21発信)</p> <p>当研究部や振興局、漁業公社など、県関係水産技術職員の研究・技術の研鑽を目的として、1月30日に研究発表会を開催しました。59名が参加し、12課題について活発な質疑応答・意見交換を行いました。これらの研究成果を本県水産業の発展につなげていきます。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2026.3.31
1993	水産研究部	<p>【潜水訓練】 (2025. 12. 29発信)</p> <p>当研究部では、藻場や放流魚介類の研究の一環として、潜水調査を行っています。潜水調査は、慣れないうちは思うようにいかないこともあるため、事前の準備や訓練が大切です。 そのため、12月17日に潜水調査を行う研究員を対象に、潜水の基礎訓練を実施しました。特に今年度初めて潜水調査に取り組む研究員にとって、大変有意義な訓練となりました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2026.1.31
1992	水産研究部	<p>【10月採卵ブリ種苗 現地養殖試験開始】 (2025. 12. 29発信)</p> <p>当研究部では、春の産卵期における養殖ブリの成長と品質低下の対策として、産卵を秋（10月）に行う技術開発を行っています（タイムリー情報No1945（2025. 10. 28 発信））。12月17日、順調に成長した全長8cmのブリ種苗約1万尾を蒲江の養殖場へ出荷しました。今後、出荷したブリの成長・品質を養殖業者とともに調査していきます。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2026.1.31
1945	水産研究部	<p>【10月採卵ブリの種苗生産 始まりました】 (2025. 10. 28発信)</p> <p>当研究部では、通常、春に産卵するブリを人工的に8月と10月に産卵させることで、春から夏にかけての養殖ブリの出荷減少期の解消を目指しています。 10月12日に10月採卵のブリが約22万尾ふ化しました（全長約4mm）。この小さなブリを約2か月飼育し、全長8cm程になったら、養殖業者に提供し、成長や品質を調査していきます。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2025.11.30
1938	水産研究部	<p>【インターンシップの学生を受け入れました！】 (2025. 10. 8発信)</p> <p>9月26日、大学生3名がインターンシップの一環として当部を訪れました。 栽培漁業や資源解析、種苗生産、魚病診断といった業務を体験し、当部の研究と役割について理解を深めていただきました。 今回のインターンシップが、参加した学生の皆さんの大分県の水産業や水産職への関心を高め、将来の進路選択の一助となれば幸いです。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2025.10.31
1927	水産研究部	<p>【漁業学校を開催しました！】 (2025. 9. 13発信)</p> <p>大分県では漁業後継者育成のため、県漁協と連携して新規漁業者を対象とした漁業学校を開校しています。今回、当部の研究員が講師となり、魚類養殖業を志す研修生に魚類の病気の講義及び簡易な病気診断方法の実習を行いました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2025.9.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1922	水産研究部	<p>【おさかな教室に参加しました！】 (2025. 9. 6発信)</p> <p>8月17日、臼杵市役所で「夏休みおさかな教室」(主催：うすき海のほんまもん漁業推進協議会)が開催され、小学生17名が参加しました。当部からはちりめんを用意し、ちりめん(カタクチイワシ)以外の魚やエビ等を見つけてもらいました。子どもたちは見つけた生き物を図鑑で調べたり当部の研究員に聞いたりして、楽しく海の生き物について学んでいました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2025.9.30
1910	水産研究部	<p>【魚類養殖講習会で講演しました！】 (2025. 8. 20発信)</p> <p>7月16日、大分県漁業協同組合佐伯支店で、「令和7年度魚類養殖講習会」(主催：大分県水産養殖協議会)が開催され、養殖業者等41名が参加しました。講習会では、当部から「水産用抗菌剤の効果的な使用方法」をテーマに講演を行いました。このような機会は、最新の研究成果を現場に届けるうえで非常に貴重であり、今後も大分県水産養殖協議会と連携し、現場のニーズに応える提案を積極的に行っていきます。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2025.9.30
1851	水産研究部	<p>【アユの遡上状況を調査中！2】 (2025. 5. 15発信)</p> <p>当研究部では、アユの資源状況を把握するため、番匠川を遡上するアユの調査を毎年継続的に行っており、遡上時期や個体のサイズなどを記録しています。5月9日の調査では、今年度新たに採用された研究員も参加し、投網技術や調査手法の指導を行いました。こうした技術の継承を図るとともに、今後も継続して調査を進めてまいります。今年度の調査は5月末まで行う予定です。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2025.5.30
1831	水産研究部	<p>【アユの遡上状況を調査中！】 (2025. 4. 15発信)</p> <p>当研究部では、アユの資源状況を把握するため、番匠川を遡上するアユの調査を毎年継続的に行っており、遡上時期や個体のサイズなどを記録しています。今年の調査は2月14日から開始し、早速初日に遡上を確認しました。また、3月6日には108.52mmの大型個体が観察されました。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2025.5.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点 (合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
------	-----	------	-------	------	------	------

### ⑨北部水産グループ (計28件)

2032	北部水産グループ	<p>【クロメ幼体が順調に育っています】 (2026. 3. 31発信)</p> <p>クロメは大分県沿岸の藻場を構成する重要な海藻で、アワビ等の餌としても重要です。近年は海水温の上昇を起因とした影響で藻場が衰退するなどしており、漁業関係者からは増殖用種苗が求められています。当グループでは今年1月に採苗し、陸上水槽で飼育していた藻体が5cm程度に成長しました。今後、藻場保全の取り組みに活用します。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2026.3.31
2006	北部水産グループ	<p>【藻類増養殖に関する専門家から助言をいただきました】 (2026. 2. 6発信)</p> <p>当グループではヒジキ養殖をはじめとした海藻類の増養殖に関する技術開発に取り組んでいます。このたび水産大学校で藻類増殖学がご専門の教授をお招きし、取り組みについて助言をいただきました。今後の研究活動に活かしてまいります。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2026.2.28
1991	北部水産グループ	<p>【海でのアユの生態を探る第一歩】 (2025. 12. 28発信)</p> <p>川でふ化して海に流下したアユが、翌年の春に川を遡上するまでの間、海でどのように生活しているかはあまりよくわかっていません。まず広い海で小さなアユを捕まえることが困難です。このため大分川河口付近でトラップによる捕獲を試みました。光に集まる習性を利用したトラップを使用したところ、小さなアユを捕獲することができました。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2026.1.31
1983	北部水産グループ	<p>【ヒジキ養殖ロープの作成が最盛期です】 (2025. 12. 19発信)</p> <p>当グループが開発したヒジキ養殖手法では、種苗をロープに挟み込み、それを海に出して養殖を行います。人工種苗をはじめとしたさまざまな種苗で養殖ロープを作成して研究を進めており、この時期は養殖ロープの作成に大忙しです。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2026.1.31
1982	北部水産グループ	<p>【ヒジキ試験養殖漁場を設定しました】 (2025. 12. 17発信)</p> <p>当グループでは人工種苗を使ったヒジキ養殖技術開発に取り組んでいます。人工種苗を実際に使って養殖を行うための漁場を宇佐市沖の干潟上にノリ養殖漁業者の協力も得て設定しました。 この時期は大潮でも夜間から早朝にかけて大きく潮が引くため、早朝の暗いうちから干潟上に養殖ロープを張るための支柱を建てました。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2026.1.31
1981	北部水産グループ	<p>【アユの流下仔魚調査を行っています】 (2025. 12. 15発信)</p> <p>晩秋、下流域の川底に産み付けられたアユの卵は、2週間から1か月程度でふ化し、すぐに海へ流れ下ります。どのくらいの数のアユの仔魚がふ化したかを調べるために大野川で流下仔魚の調査を実施しています。 ふ化は主に日没後に行われることから、調査は日没後に行います。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.12.31

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1974	北部水産グループ	<p>【内水面魚病講習会を開催しました】 (2025. 12. 9発信)</p> <p>県内でアユやエノハなどを養殖している内水面養殖漁業者等を対象に別府市内で講習会を開催しました。約30名の方が参加され、魚病の発生状況や近年の傾向、トピックなどを聴講し、互いに情報交換を行うなどの機会となりました。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.12.31
1954	北部水産グループ	<p>【豊前海でノリ養殖が始まりました】 (2025. 11. 10発信)</p> <p>豊前海でノリ養殖の種付け作業が始まりました。近年は養殖に適した海水温に低下する時期が遅くなっており、11月までずれ込んだのは今回が初めてです。ノリの胞子がノリ網に着生したかは顕微鏡で確認しないと分かりませんので、この時期、担当者はいつでも養殖業者や普及指導員と連絡をとれるようにして、持ち込まれたノリ網を検鏡し、助言をしています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.11.30
1951	北部水産グループ	<p>【県立高田高校1年生がお越しになりました】 (2025. 11. 5発信)</p> <p>県立高田高校の1年生13名が「地域学Ⅰ」の一環としてお越しになりました。地域との関わりを通して自分の興味・関心を深めていくものです。生徒には調査・研究について説明した後、実際に施設内で飼育しているアサリの幼生や海藻類、魚の病気の診断などを見学してもらい、多くの質問がありました。地元の水産業への関心が高まることを期待しています。</p>		北部水産グループ	0978-22-2405	2025.11.30
1950	北部水産グループ	<p>【アユの産卵が始まりました】 (2025. 11. 5発信)</p> <p>朝晩、冷え込むようになり、アユも産卵時期を迎えました。川底の小石などに産み付けられた卵は、2週間から1か月程度でふ化して海に下り、また来年の春に稚アユとなって川を遡上してきます。当グループでは大分川などの主要な河川でアユの産卵状況を調査しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.11.30
1943	北部水産グループ	<p>【貝毒検査を実施しています】 (2025. 10. 17発信)</p> <p>アサリやカキなどの二枚貝類は食べたプランクトンの種類によって毒化することがあります。このため定期的にプランクトンのモニタリングを行っています。出荷する二枚貝も事前に毒化していないか検査を実施しています。今回はアサリで実施しましたが、これから寒くなるとカキのシーズンとなるため、その検査も行い、二枚貝類を安心して食べていただくように努めています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.11.30
1940	北部水産グループ	<p>【標識クルマエビの経過観察】 (2025. 10. 10発信)</p> <p>クルマエビに標識をつけて放流することがあります。あとで標識個体が漁獲されれば放流の効果を推定できるためです。また標識に番号を付せば個体識別も可能であり、さまざまな室内実験でも活用できます。このため、当グループでは実験用に標識を付けたクルマエビを飼育しており、定期的に成長や標識の脱落の有無などを調べています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.10.31
1932	北部水産グループ	<p>【漁業学校が開催されました】 (2025. 9. 20発信)</p> <p>県では漁業後継者育成のため、県漁協と連携して新規漁業者を対象とした漁業学校を開校しています。今回は当グループの研究員が講師となり、漁船漁業に従事する研修生に赤潮などの基礎知識の講義と簡易な採水器の作成実習、それを使った採水と顕微鏡観察を行いました。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.10.31

農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1928	北部水産グループ	<p>【姫島中学校2年生が見学に来ました】 (2025.9.13発信)</p> <p>姫島中学校2年生が当グループにお越しになりました。水産業に対する認識を高めるために例年、来ていただいています。 会議室で当グループの研究の取り組みを紹介したあと、施設内を見学しました。 生徒たちが水産業への関心を高め、将来の選択肢のひとつになることを期待しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.9.30
1920	北部水産グループ	<p>【市町村職員実務研修がありました】 (2025.9.4発信)</p> <p>若手の市町村職員の方が研修にお越しになりました。水産業の概要をご説明し、当グループの取り組みをご紹介しました。 その後は会議室を出て、施設内を見学していただきました。 この研修が受講者の方の今後の業務に少しでもお役に立てればと思います。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.9.30
1919	北部水産グループ	<p>【ノリ養殖に向けた水温観測を始めました】 (2025.9.4発信)</p> <p>10月以降に本格化するノリ養殖に向けて、9月1日から高田港で水温観測を始めました。30年以上続けている当グループの業務です。観測データはノリの採苗日を決める際に参考となる大事なものです。 近年は海水温が上昇しており、ノリの採苗に適した水温に下がる時期がだんだん遅くなっています。観測初日の海水温も30℃を超えており、30℃を超えたのは30年経って初めてでした。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.9.30
1914	北部水産グループ	<p>【子メジナによる雑藻駆除】 (2025.8.28発信)</p> <p>6月に採取したヒジキの受精卵が発芽しました。それと一緒にラン藻や緑藻といった雑藻も基質から生えてきました。これらの雑藻は生長が速く、ヒジキが雑藻に埋もれるおそれがあります。そこで国の研究機関の報告をもとにメジナを使って雑藻駆除を試みています。全長10cmに満たない小さなメジナですが、今後の活躍を期待しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.9.30
1890	北部水産グループ	<p>【標識付きクルマエビを放流しました！】 (2025.7.11発信)</p> <p>5月下旬と6月中旬に、宇佐市の伊呂波川河口にある干潟で、約4万尾のクルマエビを放流しました。このクルマエビたちには、目の付け根に赤・黄・白・緑・青の5色のシリコン製の目印がついています。もし、これらの色付きクルマエビを見つけた方は、ぜひご連絡ください！ 1尾あたり2,000円で買い取りを行っています。 みなさまのご協力をお待ちしております！</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2025.7.31
1889	北部水産グループ	<p>【放流したキジハタが再捕されました】 (2025.7.11発信)</p> <p>数年前に姫島で右側の腹ビレ（お腹のひれ）を切り取って放流したキジハタが、今年6月に大きくなって捕獲されました。 このような放流は、大きく育った魚が漁獲されるという「直接的な効果」だけでなく、その魚が自然の中で子どもを産むことによる「間接的な効果」も期待されています。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2025.7.31

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1888	北部水産グループ	<p>【アユの分布を調べたい】 (2025. 7. 11発信)</p> <p>環境DNA調査と呼ばれる手法があります。川や池などの水を分析することで、そこに特定の生物がいるかどうか分かるというものです。 まだ新しい手法なので、これから精度を高めていく必要がありますが、まずは大野川でアユを対象に調査してみました。 大野川漁業協同組合や分析技術を持つ県衛生環境研究センターと連携して川の水を採水し、目視観察などを行いました。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.7.31
1878	北部水産グループ	<p>【テングサ類（マクサ）の人工採苗にチャレンジ】 (2025. 6. 30発信)</p> <p>寒天などの原料となるテングサ類（マクサなど）は、藻場の構成種としても重要です。そのためテングサ類を増やそうとさまざまな研究に取り組んでいます。その一環としてマクサが成熟するこの時期に人工採苗に取り組みました。母藻から胞子を採取してシャーレの中で育てます。顕微鏡サイズの胞子ですが、うまく育つよう管理をしていきます。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.7.31
1867	北部水産グループ	<p>【ヒジキの種苗生産がはじまりました】 (2025. 6. 10発信)</p> <p>今年もヒジキが成熟する時期となったので、種苗生産をはじめました。 母藻の成熟状態を見極めながら採卵作業を行います。 受精卵はコンクリートブロックなどに付着させて育てます。 この時期、担当者は大忙しですが、ブロックのうえで成長するヒジキがいずれ海中で大きく育つことを期待して作業を進めています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.6.30
1865	北部水産グループ	<p>【海藻を魚の食害から守るために】 (2025. 6. 5発信)</p> <p>海洋環境の変化に伴い、活発化した藻食性魚類が多数来遊し、これまで以上に海藻を食べるといわれています。 そのため魚に食べられにくくした剣山型の藻場魚礁を東部振興局が日出町の協力を得て試作しましたので、連携して調査を始めました。 当グループから提供したカジメと一緒に海中に沈め、水中カメラも活用して、今後の経過を観察します。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.6.30
1858	北部水産グループ	<p>【今年もおゴノリの天然採苗に取り組みます】 (2025. 6. 2発信)</p> <p>寒天などの原料となるオゴノリの養殖実用化に向けて、今年もおゴノリが成熟するこの時期に宇佐市地先の干潟に採苗用のノリ網を設置しました。 成熟したオゴノリから放出された胞子がノリ網に付着するのを待ちます。昨年よりさらに沖合にも設置し、採苗に適した場所などを探る予定です。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.5.30
1856	北部水産グループ	<p>【赤潮・貝毒プランクトン調査 実施中！】 (2025. 5. 27発信)</p> <p>今年度も毎月2～3回、本県瀬戸内海域において赤潮や貝毒の原因となる植物プランクトンの出現状況をモニタリングしています（赤潮16定点、うち5定点で貝毒調査も実施）。 併せて水温や塩分、溶存酸素量などの環境項目も調査しており、これらの調査結果はホームページ等を通じて公表しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.5.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1840	北部水産グループ	<p>【アユの標識放流を行いました】 (2025. 4. 24発信)</p> <p>大野川では海から天然アユが盛んに遡上しています。どのくらいの数のアユが遡上しているかは、とても気になる場所ですが、それを知るのにはなかなか大変です。そこで捕まえたアユに標識をつけて放流し、標識アユが再び捕れれば、ある程度の推測ができるため、漁業者の協力を得て標識放流を試みました。今後の再捕が期待されます。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.5.30
1837	北部水産グループ	<p>【オゴノリ養殖試験の経過観察】 (2025. 4. 18発信)</p> <p>寒天の原料となるオゴノリ類の養殖技術を確立するため、昨年6月に宇佐地先の干潟に網を設置し、天然採苗を試みました。その後、約10か月が経過しましたが、一部の網ではオゴノリの繁茂がみられました。まだ解明すべき課題は多いものの、可能性を秘めていることが分かりました。試験に協力いただいている藻類養殖漁業者も興味深そうに見ていました。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.5.30
1836	北部水産グループ	<p>【水温などの調査結果を公表しています】 (2025. 4. 18発信)</p> <p>水温や塩分などの海洋環境のデータは、長期間の変化の様子を把握したり、水産資源の動向などを検討するうえでも重要です。当グループでは毎月、船舶を使用して調査を行っており、調査結果はパソコンを使って天気図のように分かりやすく図示して公表していますので、よろしければご覧になってください。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.5.30


## 農林水産研究タイムリー情報

2026年5月14日時点

(合計203件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
------	-----	------	-------	------	------	------

## ⑩農林水産研究指導センター(計1件)

1929	農林水産研究指導センター	<p>【温暖化対策のための研究員研修を実施しました】 (2025. 9. 14発信)</p> <p>農業分野では、近年の気候の温暖化により栽培環境が変化しており、作物への様々な影響が懸念されています。当センターでの今後の温暖化対策研究への参考とするため、宮崎県総合農業試験場への視察研修を実施しました。当県より温暖な気候の同県における温暖化対策等の研究への取組状況について情報収集を行うとともに、両県研究員間での意見交換を行い、様々な知見を得ることができました。</p>		農林水産研究指導センター 研究企画担当	0978-28-2074	2025.9.30
------	--------------	---	--	------------------------	--------------	-----------